

令和元年度

普及指導活動外部評価実施報告書

岩手県農林水産部農業普及技術課

目 次

	頁
第 1 実施内容	1
第 2 評価結果	4
○ 農業普及技術課農業革新支援担当	5
○ 盛岡農業改良普及センター	12
○ 八幡平農業改良普及センター	15
○ 中部農業改良普及センター	19
○ 奥州農業改良普及センター	23
○ 一関農業改良普及センター	27
○ 大船渡農業改良普及センター	31
○ 宮古農業改良普及センター	35
○ 久慈農業改良普及センター	39
○ 二戸農業改良普及センター	43
添付 普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領	47

第1 実施内容

1 目的

「普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領」（以下、「要領」という。）に基づき、農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、一層効果的かつ効率的な普及指導活動等を展開するため、外部評価委員会の評価を受けることとしている。当年度は、令和元年度岩手県普及指導活動外部評価検討会実施計画を持って、外部評価検討会の運営にあたる。

2 実施主体

農業普及技術課

3 評価委員

分科会の別に、先進的農業者や外部有識者等を5名以内で選任。

(1) 第1分科会

区分	所属等	氏名
先進的農業者【土地利用】	(株)西部開発農産 生産部部長	清水一孝
農業関係団体者【耕種部門】	全農岩手県本部営農技術課 総合アドバイザー	千葉 丈
農業関係団体者【畜産部門】	一般社団法人岩手県畜産協会 経営支援部部長	吉田勝栄
学識経験者	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 生産基盤研究領域 技術評価グループ長	宮路広武
他県比較・普及職員育成関係者	公立大学法人秋田県立大学 生物資源科学部 准教授	上田賢悦

(2) 第2分科会

区分	所属等	氏名
先進的農業者【組織経営】	岩手県農業農村指導士協会 会長	五日市亮一
先進的農業者【園芸流通】	(有)サン農園 代表取締役	藤澤理平
学識経験者	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 学部長・教授	吉野英岐
マスコミ・流通消費関係者	(株)日本農業新聞社 論説委員	児玉洋子
マーケティング業界関係者	岩手県産株式会社 らら・いわて盛岡店 店長	菊池奈津美

4 日程及び会場

(1) 日程

令和2年2月27日（木）10:30～16:30

(2) 会場

- 開会・第1分科会・閉会
岩手県農業研究センター 大会議室
- 第2分科会
岩手県農業研究センター 2階中会議室

5 対象課題

(1) 第1分科会：12 課題

中課題		普及センター
地域農業の核となる経営力の高い経営体の育成	県重点プロジェクト	農業革新支援担当
企業的経営体の育成	地域課題計画	八幡平
産地をけん引する企業的経営体の育成	地域課題計画	奥州
企業的経営体の育成、経営力向上及び経営基盤強化に対する支援	地域課題計画	一関
農業生産工程管理（GAP）の取組拡大	県重点プロジェクト	農業革新支援担当
地域の担い手となる経営体の育成	地域課題計画	盛岡
革新技術・GAPの普及による野菜産地力の向上	地域課題計画	二戸
地域特性を生かした農畜産物の産地力向上（低コスト、GAP、ICT）	地域課題計画	宮古
高度な生産技術を活用した生産性向上の支援（酪農・肉牛）	県重点プロジェクト	農業革新支援担当
良質粗飼料生産と畜産外部支援組織の機能強化	地域課題計画	奥州
地域特性を生かした農畜産物の産地力向上（畜産）	地域課題計画	宮古
酪農及び和牛繁殖経営体の生産性向上	地域課題計画	久慈

(2) 第2分科会：11 課題（1 課題は参考発表）

中課題		普及センター
環境制御と管理改善によるトップモデル経営体の育成	県重点プロジェクト	農業革新支援担当
野菜産地を担う経営体の育成と産地の持続的発展	地域課題計画	盛岡
産地をけん引する企業的経営体の育成-①企業的経営体の育成	地域課題計画	中部
大規模園芸経営体の育成	地域課題計画	大船渡
持続的に果樹産地を牽引する担い手の育成	県重点プロジェクト	農業革新支援担当
園芸産地の生産構造の変化-③果樹産地の生産構造の強化	地域課題計画	中部
消費者・実需者ニーズを踏まえた戦略的な産地形成への支援（果樹）	地域課題計画	一関
ブランド果物産地の強化と果樹複合経営モデルの構築	地域課題計画	二戸
女性農業者の活躍促進に向けた農村ビジネス支援【参考】	県重点プロジェクト	農業革新支援担当
産地直売所の販売額の維持・拡大	地域課題計画	久慈
地域資源を活用した農村ビジネスの振興と農村の活性化	地域課題計画	八幡平
農村起業活動支援	地域課題計画	大船渡

6 評価基準

項目	評価基準（視点）
課題背景 選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・現状把握がしっかり行われているか。 ・支援対象をしっかりと捉えているか。 ・課題選定は適切か。その場限りの対処法に偏っていないか。 ・根拠を踏まえて課題設定しているか。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な目標となっているか。 ・過小でもなく、過大でもない、根拠ある適正な目標となっているか。 ・関係機関等との共有が図られているか。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動方法と活動時期は適切か。 ・所内での役割分担と連携体制は明確か。 ・県重点プロジェクト（地域課題計画）との連携が図られているか。 ・試験研究機関等の関係機関と連携が図られているか。 ・支援対象等とのコミュニケーションが図られているか。
活動実績と成果 地域や対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・実績と成果が見出されているか。・実績と成果につながった要因を分析しているか。 ・地域や対象の変化をしっかりと捉えているか。
残された課題 今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・残された課題をしっかりと捉えているか。 ・今後の対応策をしっかりと設定しているか。

【内部評価及び外部評価の結果】

A：ねらい通りに進んでいる。

B：概ねねらい通りに進み始めた。

C：ねらい通りに進めないが、展開の糸口は見えている。

D：全くねらい通りになっていない。糸口すらない。

第2 評価結果

第1分科会 12 課題、第2分科会 11 課題の計 23 課題について、内部評価と外部評価の差を全体的にみると、以下（「外部評価 < 内部評価」）11.5%、同じ（「外部評価 = 内部評価」）77.0%。以上（「外部評価 > 内部評価」）11.5%であり、適切な内部評価が行われている。

○ 第1分科会

中課題	普及センター	内部評価	外部評価				外部評価と内部評価の差		
			A	B	C	D	以下	同じ	以上
地域農業の核となる経営力の高い経営体の育成	農業革新支援担当	B	1	4	0	0	0.0%	80.0%	20.0%
企業的経営体の育成	八幡平	A	4	1	0	0	20.0%	80.0%	-
産地をけん引する企業的経営体の育成	奥州	B	0	5	0	0	0.0%	100.0%	0.0%
企業的経営体の育成、経営力向上及び経営基盤強化に対する支援	一関	A	5	0	0	0	0.0%	100.0%	-
農業生産工程管理（GAP）の取組拡大	農業革新支援担当	B	2	3			0.0%	60.0%	40.0%
地域の担い手となる経営体の育成 ※経営+GAPのセット発表	盛岡	C	0	4	1	0	0.0%	20.0%	80.0%
革新技術・GAPの普及による野菜産地力の向上	二戸	A	4	1	0	0	20.0%	80.0%	-
地域特性を生かした農畜産物の産地力向上（低コスト、GAP、ICT）	宮古	A	4	1	0	0	20.0%	80.0%	-
高度な生産技術を活用した生産性向上の支援（酪農・肉牛）	農業革新支援担当	B	0	5	0	0	0.0%	100.0%	0.0%
良質粗飼料生産と畜産外部支援組織の機能強化	奥州	B	0	5	0	0	0.0%	100.0%	0.0%
地域特性を生かした農畜産物の産地力向上（畜産）	宮古	B	0	5	0	0	0.0%	100.0%	0.0%
酪農及び和牛繁殖経営体の生産性向上	久慈	B	1	4	0	0	0.0%	80.0%	20.0%

○ 第2分科会

中課題	普及センター	内部評価	外部評価				外部評価と内部評価の差		
			A	B	C	D	以下	同じ	以上
環境制御と管理改善によるトップモデル経営体の育成	農業革新支援担当	B	0	5	0	0	0.0%	100.0%	0.0%
野菜産地を担う経営体の育成と産地の持続的発展	盛岡	B	0	5	0	0	0.0%	100.0%	0.0%
産地をけん引する企業的経営体の育成-①企業的経営体の育成	中部	B	0	2	3	0	60.0%	40.0%	0.0%
大規模園芸経営体の育成	大船渡	C	0	3	2	0	0.0%	40.0%	60.0%
持続的に果樹産地を牽引する担い手の育成	農業革新支援担当	B	0	5	0	0	0.0%	100.0%	0.0%
園芸産地の生産構造の変化-③果樹産地の生産構造の強化	中部	A	2	3	0	0	60.0%	40.0%	-
消費者・実需者ニーズを踏まえた戦略的な産地形成への支援（果樹）	一関	B	0	5	0	0	0.0%	100.0%	0.0%
ブランド果物産地の強化と果樹複合経営モデルの構築	二戸	A	2	3	0	0	60.0%	40.0%	-
女性農業者の活躍促進に向けた農村ビジネス支援【参考】	農業革新支援担当						-	-	-
産地直売所の販売額の維持・拡大	久慈	C	0	2	3	0	0.0%	60.0%	40.0%
地域資源を活用した農村ビジネスの振興と農村の活性化	八幡平	B	0	3	1	0	25.0%	75.0%	0.0%
農村起業活動支援	大船渡	B	0	4	0	0	0.0%	100.0%	0.0%
合計（第1分科会+第2分科会）						11.5%	77.0%	11.5%	

- 農業革新支援担当及び普及センター別の外部評価結果報告書次項のとおり。

令和元年度 県重点プロジェクト 外部評価結果報告書

農業普及技術課農業革新支援担当

1 外部評価の実施状況

(1) 第1分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	地域農業の核となる経営力の高い経営体の育成《内部評価B》 【農業革新支援担当】	清水一孝	(株)西部開発農産 生産部部长	先進的農業者 【土地利用】
	農業生産工程管理(GAP)の取組拡大《内部評価B》 【農業革新支援担当】	千葉 丈	全農岩手県本部営農技術課 総合アドバイザー	農業関係団体者 【耕種部門】
実施場所	高度な生産技術を活用した生産性向上の支援(酪農・肉牛)《内部評価B》 【農業革新支援担当】	吉田勝栄	一般社団法人岩手県畜産協会 経営支援部部长	農業関係団体者 【畜産部門】
岩手県農業研究センター 大会議室		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北 農業研究センター生産基盤研究領域 技術評価グループ長	学識経験者
		上田賢悦	公立大学法人秋田県立大学 生物資源科学部 准教授	他県比較・ 普及職員育成関係者

(2) 第2分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	環境制御と管理改善によるトップモデル経営体の育成《内部評価B》 【農業革新支援担当】	五日市亮一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者 【組織経営】
	持続的に果樹産地を牽引する担い手の育成《内部評価B》 【農業革新支援担当】	藤澤理平	(有)サン農園 代表取締役	先進的農業者 【園芸流通】
実施場所	女性農業者の活躍躍進に向けた農村ビジネス支援【参考】 【農業革新支援担当】	吉野英岐	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 学部長・教授	学識経験者
岩手県農業研究センター 2階中会議室		児玉洋子	(株)日本農業新聞社 論説委員	マスコミ・ 流通消費関係者
		菊池奈津美	岩手県産株式会社 らら・いわて盛岡店店長	マーケティング業界 関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
地域農業の核となる経営力の高い経営体の育成《内部評価B》 【農業革新支援担当】	【清水委員】《評価B》 経営継承計画支援事例集の作成は良い。	【清水委員】 人づくりに関するプログラムも作成した方が良い。	・後継者育成を盛り込んだ経営継承計画の作成を励行する。IAFS等の経営者向け研修会への参加を誘導する。
	【千葉委員】《評価B》 単なる経営改善だけでなく、継承についても取上げていただいて、JAグループと同じ問題意識でありがたい。	【千葉委員】 情報交換を密にして一体となって取り組み。	・JA全農いわて及びJA中央会と経営継承支援を一体的に進められるよう協議する。
	【吉田委員】《評価B》 県として大規模経営体に対する重点支援で経営体の持続的発展は重要。共有しようとする方向性。	【吉田委員】 -	
	【宮路委員】《評価B》 個別経営改善支援活動については、経営体ごとの相談カルテの作成や農業経営相談センターの専門家派遣も実施されるなど、各経営体のニーズに即した対応が行われている点。	【宮路委員】 具体的な経営改善目標の設定については、各地域、経営体ごとに、様々な課題、分野、水準があるものと考えられ、改善目標の設定に際し、普及員の方々が先導役となり、的確に各経営体の要改善点の抽出、設定が行われるよう取り組むことが必要と考えられる。当課題の取り組みは、生産者にとっても心強いものと考えられ、継続した対応を期待する。	・各普及Cに対してPDCAを意識した支援活動を励行する。
	【上田委員】《評価A》 経営改善支援では教科書的・マニュアル的な指導には限界があり、対象経営体の課題の背景を理解し、多様な支援ニーズに対応できる普及指導員の育成が求められる。そのため、革新支援専門員として、経営改善支援を担当する普及指導員の能力向上や業務推進に向けた環境整備を活動内容に位置づけている点。	【上田委員】 経営継承支援に求められるものとして、①相談窓口の明確化、②経営継承の先行事例のストック、③中立的な立場から進捗状況の確認を促したり課題への気づきを促したりするファシリテーター役の存在、があげられる。特に②については、県内事例の記録と集約を今から進めるとともに、他県事例の情報収集にも取り組むべきではないか。また、③のような活動が経営継承支援で求められることを普及指導現場に示すことが、支援担当者の経営継承支援に対する心理的ハードルを下げるのではないかとと思われる。	・県内先行事例の支援経過等を担当者会議等で共有する。国段階の会議や研修等で他県の事例を収集し現地支援担当者にフィードバックする。
農業生産工程管理(GAP)の取組拡大《内部評価B》 【農業革新支援担当】	【清水委員】《評価A》 -	【清水委員】 GAP取得を検討する際の、目的別フロー図があれば良い。	・GAP取得目的や実需側からの要望など様々な条件がかかわるため、フロー図方式の資料を作成するのは難しいが、より良い方法を検討していく。認証GAPの特徴、メリット・デメリットをまとめた資料を作成し、担当者研修等を通じて周知を図りたい。
	【千葉委員】《評価A》 大変お世話になった。今後もよろしく願います。	【千葉委員】 -	
	【吉田委員】《評価B》 産地の活性化として向かう方向性は重要。課題に対する継続的支援も考えている。	【吉田委員】 実績手法によっては効果数値が変わるのではないかと。	・指摘の通り、手法によって効果の評価が変動するため、定量的な評価は経営評価手法に基づき、定性的な評価はカテゴリ分けによる効果評価を検討したい。
	【宮路委員】《評価B》 GAP認証取得という明確な目標もあることから、取得支援に向けた指導者研修などが積極的に行われ、取得実績も目標を上回っている。	【宮路委員】 GAP取得は、販売先の要求など、必要条件である側面もあるが、様々な記録や意識が経営改善にも有効である点も指摘されており、認証取得とともに経営改善への活用、支援も期待する。	・R2年度からGAP認証取得を契機としたチームによる経営改善指導のモデルケースに取組みたい。
【上田委員】《評価B》 地域レベル、県域レベルでのJAグループ等との協働活動をマネジメントできている。また、今後の課題と対応方向が明確に示されており、活動成果がさらに期待できる。	【上田委員】 -		

<p>高度な生産技術を活用した生産性向上の支援(酪農・肉牛)《内部評価B》 【農業革新支援担当】</p>	<p>【清水委員】《評価B》</p>	<p>【清水委員】 広域と地域のコントラクター連携の方法が具体的に明示されれば、より効果的な作業が行えるのではないかと。</p>	<p>・繁忙期は概ね県内共通であるが、組織によっては作業の端境があると考えられており、その端境時期の有効活用を図る方策を関係者で検討していく。</p>
	<p>【千葉委員】《評価B》</p>	<p>【千葉委員】 繁殖の生産性向上は、大規模化もあるが、分娩間隔の短縮もあるので、岩手は全国に比べても長いので、指導を願う。</p>	<p>・指摘のとおり、地域サポートチームの活動を通じて繁殖成績の向上を図るだけでなく、活動で得られた成果や改善事例の周知に努めたい。</p>
	<p>【吉田委員】《評価B》 単年度目標達成もある。外部支援組織の活用は重要な取組。</p>	<p>【吉田委員】 流通粗飼料としての品質確保対策。</p>	<p>・特に牧草サイレージの品質向上が必要であり、広域コントラクターにおける肥培管理技術の向上を図るほか、地域コントラクター連携を進め適期作業となるよう継続指導する。</p>
	<p>【宮路委員】《評価B》 乳量増加や分娩間隔の短縮などが主な到達目標となっている。乳量の増加や分娩間隔の短縮を実現するためには、基本的な飼養管理技術の改善が必要と考えられるが、モニタリングに基づく地道な改善指導が行われている点は評価できる。</p>	<p>【宮路委員】 サポートチーム内の具体的な連携や役割分担の内容について、不明な部分もあるが、連携を生かした活動を期待したい。</p>	<p>・説明時間の都合で役割分担等の説明は割愛したが、チームを構成する普及、行政、家保、JA等の立場を活かした連携、分担が行われている。課題や目標を共有して一体的な活動が今後も展開されるようサポートしていく。</p>
	<p>【上田委員】《評価B》 ガイドラインに明記されているとおり、作目担当の革新支援専門員であっても、普及指導員の資質向上を課せられた業務として認識すべきであり、サポートチーム活動の中で畜産担当普及指導員の能力向上を図る内容。</p>	<p>【上田委員】 到達目標の設定数値の根拠が表2からは読み取れない。例えば、「乳用牛経産牛1頭あたりの乳量」は何に対して100%なのか、その乳量は全県の経産牛の積上げ？平均？なのか。「黒毛和種繁殖牛の平均分娩間隔」はどのように算出されたのか。到達目標の目標値・実績値をどのように出したのか、表中に注釈があると畜産に疎い場合も評価しやすい。</p>	<p>・到達目標は施策連携の観点から上位計画である県民計画のアクションプランと連動させて設定している。「経産牛1頭当たり乳量」、「黒毛和種繁殖牛の平均分娩間隔」のH30年の現状値、実績値は生産団体の統計値(県平均値)に依っている。また、経産牛1頭当たり乳量は現状年の乳量を100%として指数表示としている。今後は注釈を工夫する等分かりやすい表記としていく。</p>

(2) 第2分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
<p>環境制御と管理改善によるトップモデル経営体の育成《内部評価B》 【農業革新支援担当】</p>	<p>【五日市委員】《評価B》 生産者間の情報共有を促している点。</p>	<p>【五日市委員】 定期ミーティングの継続。</p>	<p>・環境制御を効果的なものとするためには必須であることから、取組を継続するとともに、指導に活用できるマニュアルの整備を進めたい。</p>
	<p>【藤澤委員】《評価B》 県全体の課題を上手く捉えた。</p>	<p>【藤澤委員】 ただ、取組を農業者へ伝えるのがすごく難しく、データの蓄積が必要。</p>	<p>・モデル経営体の育成により、優良事例として県内の生産者に周知するとともに、データの収集・整理に努めたい。</p>
	<p>【吉野委員】《評価B》 —</p>	<p>【吉野委員】 オランダの場合、周年でトマトを栽培した場合、収穫は10アール当たり70トンということであるが、日本の15トンというのは周年栽培の値なのだろうか。比較する際の条件が同じであれば、単に4倍以上の反収になるが、その条件が違った場合は、あまり意味がない比較にならないか。計画段階で具体的な目標(導入経営体数、面積、品目)などを明示しないと、目標に沿ったプロセスがはっきりしないのではないか。導入コスト、管理コストについても触れるべきはないだろうか。実際に導入する場合、機械に頼り切りになってはいけないことは分かったが、何かネックになるのが今回の報告では分からなかった。</p>	<p>・オランダと日本の栽培を比較した場合、気候や作期、品種、労働や燃料等のコスト等が異なるので、単純比較できないのはそのとおりで、そのまま70トン達成できるわけではないが、オランダの(環境制御)技術を取り入れることで、日本でも単収50トン以上を達成する経営体も出てきていることから、目指す姿として示したもの。本県では当面の目標として、県の農研センターで成果としてとりまとめたトマト30トンの達成を目指したい。 ・また、県の事業でモデル実証を行っているので、そこでのデータを収集して経営評価できるように進めたい。 ・なお、運用でネックとなるのは、生育や気候に合わせて環境制御機器の設定をどのように変更するか。その部分を分かりやすく明示できるように努めたい。</p>
	<p>【児玉委員】《評価B》 生産者がモニタリング装置を自作し設置したのはいいことだと思う。それぞれのハウス環境が違うことが分かった点がよかった。</p>	<p>【児玉委員】 環境制御技術を岩手県は何に、どう導入していくのか、大局的な視点がほしい。収量と所得がどれだけあって費用対効果はどうかなど、分析が穂欲しい。生産者がモニタリング装置を自作し設置したのはいいことだと思う。それで費用はどれくらい抑えられたのか、データがあればよかった。たくさん装備することで、それぞれのハウス環境が違うことが分かった点がよかった。生産者の交流は重要なので大いに進めてほしい。</p>	<p>・当面は、県の農研センターで成果としてとりまとめたトマト30トンの達成を目指して進めていきたい。費用対効果については、研究成果で試算は出されているものの(100坪ハウス×3棟、単収29t/10a、販売額10,505千円、所得2,592千円)、実経営体レベルでのデータの収集を進めたい。 ・自作したモニタリング装置は、センサー数等にもよるが概ね10～20万円程度。高い装置と比べると半分以下のコストとなる。 ・生産者の交流は、環境制御の理解促進やモチベーションの維持に有効であることから、これから更に進めていきたい。</p>
	<p>【菊池委員】《評価B》 本県の農業そのものが厳しさを増す中で、新たな取り組みをして改革に努めている。</p>	<p>【菊池委員】 早期自立を目指すにはコストはかかるため時間を要する。</p>	<p>・導入にかかる費用対効果を早期に示すとともに、目標とする単収の達成に向けて支援を強化していきたい。</p>

<p>持続的に果樹産地を牽引する担い手の育成 《内部評価B》 【農業革新支援担当】</p>	<p>【五日市委員】《評価B》 面積の問題、収益の質問に的確に答えている点。</p>	<p>【五日市委員】 経営改善モデル経営体の今後の取組について、3年目に計画作成だが、もっと早める方向を望む。</p>	<p>・モデル経営体支援のツールである、改植意思決定支援システムの作成の前倒しが可能か検討し、併せて本課題の全体スケジュールの見直しを検討したい。</p>
	<p>【藤澤委員】《評価B》 全県的に2つの品目で取組むことで、成果が見えやすい。</p>	<p>【藤澤委員】 -</p>	
	<p>【吉野委員】《評価B》 -</p>	<p>【吉野委員】 全体にまとまりのある発表であった。計画の1年目でまだ成果が出る段階ではないので、2年目に向けて着実に指導を継続して欲しい。2ヘクタール以上の経営面積をもつ果樹主業型経営体において、りんごであれば、品種の見合わせと経営規模(面積や労力)の関連性はどのように考えたらいいのかを示すべきではないか。とくに「紅いわて」を経営のなかにどのように位置づけて、どの程度まで拡大していくことか必要なのか経営モデルを示してもいいのではないか。</p>	<p>・改植意思決定支援システムで、「紅いわて」等省力で収益性の高い品種を組み合わせ、かつ労力配分に考慮した経営モデルを作成し、本県における果樹主業型経営体の類型を提示したい。</p>
	<p>【児玉委員】《評価B》</p>	<p>【児玉委員】 「紅いわて」は単価が高く、省力化できる県オリジナル品種ということで、生産量を増やして欲しい。岩手を代表するような品種に期待する。サビ発生については、省力化に逆行しないような、なおかつなるべく農薬使用量を減らす方法を確立して欲しい。</p>	<p>・「紅いわて」のサビ果発生や樹勢衰弱の課題については、引き続き調査研究専門部会を通じて課題解決を進め、生産拡大に繋げていきたい。 ・農薬使用量を減らす取組は、農研センターでも研究中なので、協働して検討していく。</p>
	<p>【菊池委員】《評価B》 -</p>	<p>【菊池委員】 -</p>	
<p>女性農業者の活躍躍進に向けた農村ビジネス支援【参考】 【農業革新支援担当】</p>	<p>【五日市委員】 参考発表に付き評価なし</p>	<p>【五日市委員】 参考発表に付き評価なし</p>	
	<p>【藤澤委員】 参考発表に付き評価なし</p>	<p>【藤澤委員】 参考発表に付き評価なし</p>	
	<p>【吉野委員】 参考発表に付き評価なし</p>	<p>【吉野委員】 参考発表に付き評価なし</p>	
	<p>【児玉委員】 参考発表に付き評価なし</p>	<p>【児玉委員】 参考発表に付き評価なし</p>	
	<p>【菊池委員】 参考発表に付き評価なし</p>	<p>【菊池委員】 参考発表に付き評価なし</p>	

3 総括的評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
<p>【清水委員】 経営力の高い経営体の育成と、GAPと、酪農・肉牛の生産技術は非常に濃密にひも付くものだと思うので、より高度なひも付けを期待する。</p>	<p>【清水委員】 主役は働く人なので、働く人たちが魅力だと思える技術や普及を期待する。家族経営も、法人も、個人経営も永続的な農業を考えると、より新しい技術普及を期待している。</p>	<p>・指摘を踏まえ、支援対象を十分に捉えた県重点プロジェクトの推進に努めていく。</p>
<p>【千葉委員】 現状にあった適切な課題を設定して、県全体を指導している。</p>	<p>【千葉委員】 JA全農いわてとして、改善支援担当ともしっかり情報交換するように努める。</p>	<p>・引き続き、情報交換の機会を取っていく。</p>
<p>【吉田委員】 柱を明確にし、県の方向(方針)を決めて進めている。</p>	<p>【吉田委員】 -</p>	<p style="text-align: center;">/</p>
<p>【宮路委員】 担い手経営の育成やサポートなど、全体的に生産現場の課題解決や改善に必要な活動が行われている点。</p>	<p>【宮路委員】 県重点プロジェクトと地域課題の関係性を明確に理解出来ていない部分もあるかもしれませんが、地域課題を進める上で、必要なサポートや情報の提供・共有など、うまく連携して活動に取り組まれることを期待したい。</p>	<p>・指摘を踏まえ、県重点プロジェクトと地域課題計画の連携に努めていく。</p>
<p>【上田委員】 革新支援専門員として、技術的な観点や事業推進の観点からの活動に止まらず、普及指導員の能力向上や業務推進に向けた環境整備を活動内容に位置づけている点はとても評価できる。</p>	<p>【上田委員】 次の地域課題計画で改善を求める事項を指導していただきたい。到達目標の設定は、①県重点プロジェクトと同一項目、②当該地域課題計画のオリジナル項目、をそれぞれ置くべきではないか。そうすることで、当該地域課題計画の成果が、県全体の到達目標にどの程度寄与しているのか、地域的な背景によるオリジナルの到達目標に対してはどの程度寄与したのか、それぞれ判断できる。そうでなければ、地域(普及センター)での普及活動が県全体の目標達成にどのようにつながったのかが見えてこない。</p>	<p>・指摘を踏まえ、県重点プロジェクトと地域課題計画の連携に努めていく。次年度の外部評価検討会では連携度合の表現を工夫する。</p>
<p style="text-align: center;">/</p>	<p>【上田委員】 到達目標の設定は、①県重点プロジェクトと同一項目、②当該地域課題計画のオリジナル項目、をそれぞれ置くべきではないか。そうすることで、当該地域課題計画の成果が、県全体の到達目標にどの程度寄与しているのか、地域的な背景によるオリジナルの到達目標に対してはどの程度寄与したのか、それぞれ判断できる。そうでなければ、地域(普及センター)での普及活動が県全体の目標達成にどのようにつながったのかが見えてこない。</p>	<p>・同上。</p>

(2) 第2分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
<p>【五日市委員】 スマート農業、GAPへの取組と、情報共有を進めている。生産者との情報共有や、足を運んでの聞取りでデータを積上げ、発表している事例。</p>	<p>【五日市委員】 他の地域または全体的には、生産者との連携を密にしてもらいたい。モデル経営体を情報発表会に招き、その経営者またはリーダーによる発表機会を設け、地域生産者に情報提供してもらいたい。</p>	<p>・指摘を踏まえ、支援対象を十分に捉えるとともに、地域農業者への情報発信に努めていく。</p>
<p>【藤澤委員】 県全体の問題を広く捉え、取組む体裁となっていた。新しいことや、発展しなければいけないことが明確であった。</p>	<p>【藤澤委員】 広い課題と、ポイントが狭い課題があり、各センターの取組を狭めていることもある。</p>	<p>・指摘を踏まえ、県重点プロジェクトと地域課題計画の連携に努めていく。</p>
<p>【吉野委員】 全体的には時流にあったテーマを重点プロジェクトとして選択して実践を重ねている点は評価できる。</p>	<p>【吉野委員】 重点プロジェクトのテーマ自体は評価できるが、今年度は1年目なので、数値的な目標値よりは、なぜこの課題が重点プロジェクトになっているのか、他のプロジェクトとどう違うのかをはっきり示して欲しかった。</p>	<p>・指摘を踏まえ、県重点プロジェクトと地域課題計画の連携に努めていく。次年度の外部評価検討会では連携度合の表現を工夫する。</p>
<p>（斜線）</p>	<p>【吉野委員】 地域課題計画と関連して、普及活動全般を報告するというテーマであれば、これでもいいのかもしれないが、そうすると第1報告の農業普及技術課の意味合いはなんだったのかがはっきりしなくなってしまう。全体に報告の目的、伝えたいことを絞り込んだほうがよかったのではないか。</p>	<p>・同上。</p>
<p>（斜線）</p>	<p>【吉野委員】 重点プロジェクトの報告に絞るのか、取り組んだ課題すべてを報告するのか徹底していなかった。</p>	<p>・同上。</p>
<p>【児玉委員】 経営体の育成、担い手育成、女性農業者の起業化など人材育成が共通した課題となって取り組んでいる。結局、普及事業は人づくりであり、信頼関係を構築している点が分かった。県のオリジナル品種を産地に根付かせようという意気込みが伝わってきた。評価委員で男性経営者が2人おり、質問や意見が現場ならではの視点であり、よかった（女性農業者も必要だった）。</p>	<p>【児玉委員】 実績はこれからという課題が多いと感じた。スマート農業、環境制御、GAP導入とメニューはそろえたが、では岩手農業をどうしていくのかという、将来展望がみえない。実際に発表するのは重点的なものに絞り込み、それを深く説明してもらい議論することも検討してはどうだろう。当日に発表しない課題は、資料だけで評価することも可能だ。会場に普及対象の農家や法人などを招いて、コメントをいただくこともよいと思う。評価委員だが、私のような者より、女性農業士や女性の農業指導士など現場の女性がいいと思った。経営感覚に優れた女性農業者の支援を普及課題としており、彼女たちに県の姿勢を説明する機会になるし、意見を聞く機会になる。</p>	<p>・指摘を踏まえ、大局的視点も意識し、県重点プロジェクトの推進に努めていく。加えて、支援対象者の女性農業者などの評価を反映できるよう、次年度の外部評価検討会では工夫していく。</p>
<p>（斜線）</p>	<p>【児玉委員】 地域課題計画での発表者が所属長なのでしょうか。普及担当者が壇上で説明した方が、質問にもすぐ答えられるし、こらからのプレゼンテーションの訓練になると思う。</p>	<p>・指摘を踏まえ、プレゼン発表者の在り方を検討し、次年度の外部評価検討会に反映させたい。</p>
<p>【菊池委員】 普及センター皆様の地域を良くしていこうという思い、地域の皆様との取組み、努力。</p>	<p>【菊池委員】 -</p>	<p>（斜線）</p>

令和元年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

盛岡農業改良普及センター

1 外部評価の実施状況

(1) 第1分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	地域の担い手となる経営体の育成 《内部評価C》 ※経営+GAPのセット発表	清水一孝	(株)西部開発農産 生産部部长	先進的農業者 【土地利用】
		千葉 丈	全農岩手県本部営農技術課 総合アドバイザー	農業関係団体者 【耕種部門】
実施場所		吉田勝栄	一般社団法人岩手県畜産協会 経営支援部部长	農業関係団体者 【畜産部門】
岩手県農業研究センター 大会議室		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター生産基盤研究領域 技術評価グループ長	学識経験者
		上田賢悦	公立大学法人秋田県立大学 生物資源科学部 准教授	他県比較・ 普及職員育成関係者

(2) 第2分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	野菜産地を担う経営体の育成と産地の持続的発展 《内部評価B》	五日市亮一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者 【組織経営】
		藤澤理平	(有)サン農園 代表取締役	先進的農業者 【園芸流通】
実施場所		吉野英岐	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 学部長・教授	学識経験者
岩手県農業研究センター 2階中会議室		児玉洋子	(株)日本農業新聞社 論説委員	マスコミ・ 流通消費関係者
		菊池奈津美	岩手県産株式会社 らら・いわて盛岡店 店長	マーケティング業界 関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
地域の担い手となる経営体の育成《内部評価C》 ※経営+GAPのセット発表	【清水委員】《評価B》	【清水委員】 新規就農者が多い地域であれば、新規就農者へのGAP取得、安定した経営のための手法をアドバイスするような機会を設けても良いのではないか。「新規就農者⇒GAP取得しては？」のような取組み。	・新規就農者の意向を確認した上で、GAPの啓蒙や実践を進めていく。
	【千葉委員】《評価B》 36経営体中34経営体に目標設定したのは成果としては悪くない。GAP再認証も進めていただき、ありがと	【千葉委員】 -	
	【吉田委員】《評価C》 経営支援をした結果が出た。	【吉田委員】 目標のないもので良いか。連携しにくかった面を改善。	・GAPについては、支援経営体における取組の意向を確認し、導入希望があれば個別の達成目標に取り入れて、着実な実践へと誘導する。
	【宮路委員】《評価B》 経営改善支援について、最終的な達成率は70%程度になる見込みとのことだが、活動内容や改善目標は非常に多岐にわたっており、普及指導活動としては積極的な取組みが行われていると評価できる。	【宮路委員】 一方で、様々な生産者がいる中で、改善目標の設定については、積極的に取り組めば、ある程度到達可能な目標を設定することも生産者の改善意欲をそがないためにも必要であると考えられる。生産者との検討の中で、うまくモチベーションを引き出せるような改善目標の設定が行えることを期待したい。	・経営主の意志を尊重し現況を把握した上で、経営の発展段階を考慮しつつ、適切な単年度目標の設定を進める。
	【上田委員】《評価B》 支援事例2における普及活動として、モニタリング結果を週1でレポートにまとめて、個別指導を活用していることは、多忙化が進む普及指導現場において、非常に高く評価できる。支援事例1においても、同様に濃密な普及活動を実践していることが理解できる。このような普及活動は、支援対象者との信頼関係を構築し、更なる経営支援活動につながる優良事例である。	【上田委員】 経営者が経営課題を把握し、経営改善目標を設定できていることは、経営改善のファーストステップとして評価すべきである。地域課題計画オリジナルの到達目標として設定してもいいのではないか。	・本課題は、産地化推進の課題におけるモデル経営体育成の普及活動ともリンクしている。今後は、担い手育成を進めながら、その技術・経営管理のノウハウを地域内に波及する取組へと、課題間・担当課間のより高度な連動を図っていく。

(2) 第2分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
野菜産地を担う経営体の育成と産地の持続的発展《内部評価B》	【五日市委員】《評価B》 -	【五日市委員】 先進生産者の収量収入向上を目標達成し、その事例を増やして指導する目標であるが、情報の共有化と経営的なコストを年々積上げ、実状を分析していく必要がある。	・生産量の向上に係る指導と併せて経営評価も行い、その年次変化を見ながら、所得向上につながる対策を支援していく。
	【藤澤委員】《評価B》 農業者をバックアップする取組で良かった。	【藤澤委員】 これが地域につながることを期待。	・盛岡地域環境制御研究会や盛岡市環境制御研究会の活動で情報提供し、会員の生産活動に反映させるよう支援を進める。
	【吉野委員】《評価B》 -	【吉野委員】 主要4野菜の面積の減少を生産性の向上でどれだけカバーできるのか見通しを示して欲しかった。 (この他の指摘は県重点プロジェクト関連で回答する)	・今後確保すべき栽培面積や単位収量を明確にすることで目標設定しやすくなるので、現状分析と今後の予測を行っていく。
	【児玉委員】《評価B》 タマネギ、ズッキーニは目標単収を達成しており、評価できる。	【児玉委員】 キュウリは全国的に生産量が減少傾向にあるようだ。産地として継続性を願いたい。トマトは全国的に作付けが増えてきて価格がここ1、2年低迷している。岩手らしい高品質性を示さないと産地は生き残れない。成果発表で、収量は確保しても単価がどうであったかが分からない。できれば所得額で評価するなどの手法を試みて欲しい。	・主要品目としているきゅうりは、収量向上対策を講じて栽培面積の減少を補うこととする。 ・環境制御によるトマト栽培では、経営評価を行い、より所得を高めることができるよう指導していく。
	【菊池委員】《評価B》 計画を上回る経営改善がみられた点(企業的経営体候補、企業的経営体)営農の機運が高まった点。	【菊池委員】 スマート農業の導入にプラスの声がある一方で労力不足がある。	・労力不足はどの作目でも問題となっているので、JA等関係機関・団体と連携して労力確保に向けた取組を進める。

3 総括的評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【清水委員】 やる気あふれる若手農家に特に注目して、そこから輪を拡げ、実証普及を行っている。	【清水委員】 －	
【千葉委員】 少ない人数で成果をあげて生産向上に努めている。	【千葉委員】 (1)経営関係の中課題の発表で県重点プロジェクトの関連が薄いものが見られた。個々の活動は成果をあげている。	指摘を踏まえて進めていく。
【吉田委員】 計画を立て、農業普及員の方が先頭になり自ら取組んでいる。ぜひ、地域の農家に定着されることを期待。	【吉田委員】 －	
【宮路委員】 経営改善支援など、全体的に生産者、現場に寄り添った活動内容となっている点は評価できる。	【宮路委員】 経営改善目標等の設定に際しては、生産者と十分なコミュニケーションをとり、必要な改善点等をうまく導き出せるよう意識して活動に取り組まれることを期待したい。	・引き続き定期的な現地指導を励行し、経営主との意思疎通を円滑に行うとともに、農産物の生育ステージ等に応じた課題解決に努める。
【上田委員】 担い手や地域に密着し、潜在的な支援ニーズを把握し、支援対象経営体との信頼関係を構築しながら普及活動を実践していることが、各事例から理解できた。	【上田委員】 (指摘は県重点プロジェクト関連で回答する)	

(2) 第2分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【五日市委員】 モデル経営体への支援。	【五日市委員】 モデル経営体の実証情報を発表し、共有する機会を作ってもらいたい。	・盛岡地域環境制御研究会等の活動で情報共有を進めるほか、革新支援担当と連携して、県全体での情報共有を図っていく。
【藤澤委員】 各地域の特色に基づき、課題を考え、取組んでいた。	【藤澤委員】 ほとんどの課題が高齢化と若手不足のようであった。これを解決すればいいのではないか。	・若手生産者の育成のため、個々の技術指導や若手グループによる研究活動に対する支援を行い、技術向上や経営確立を図っていく。
【吉野委員】 どの報告も重点プロジェクトを意識した報告になっている点は評価できる。	【吉野委員】 初年度なので数値目標のクリアも大切だが、今後の見通しについても、よりつっこんだ分析があれば良かった。 (この他の指摘は県重点プロジェクト関連で回答する)	
【児玉委員】 普及員と農家が信頼関係を構築していることが伺えた。女性就農者が激減している点など岩手県の農業の現状が少し分かった。	【児玉委員】 成果が数字で示されないものがあり、評価の判断が難しかった。 (この他の指摘は県重点プロジェクト関連で回答する)	・活動の成果を明確にするため、各課題の目標を数値で設定し、その達成に向けた取組を行っている。
【菊池委員】 普及センター皆様の地域を良くしていこうという思い、地域の皆様との取り組み、努力を感じた。	【菊池委員】 課題にもう少し踏み込んだ具体策が必要。	・課題ごとに解決のプロセスを検討し、早期の解決に向けた取組を進めていく。

令和元年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

八幡平農業改良普及センター

1 外部評価の実施状況

(1) 第1分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	企業的経営体の育成 《内部評価A》	清水一孝	(株)西部開発農産 生産部部长	先進的農業者 【土地利用】
		千葉 丈	全農岩手県本部営農技術課 総合アドバイザー	農業関係団体者 【耕種部門】
実施場所		吉田勝栄	一般社団法人岩手県畜産協会 経営支援部部长	農業関係団体者 【畜産部門】
岩手県農業研究センター 大会議室		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター生産基盤研究領域 技術評価グループ長	学識経験者
		上田賢悦	公立大学法人秋田県立大学 生物資源科学部 准教授	他県比較・ 普及職員育成関係者

(2) 第2分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	地域資源を活用した農村ビジネスの振興と農村の活性化 《内部評価B》	五日市亮一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者 【組織経営】
		藤澤理平	(有)サン農園 代表取締役	先進的農業者 【園芸流通】
実施場所		吉野英岐	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 学部長・教授	学識経験者
岩手県農業研究センター 2階中会議室		児玉洋子	(株)日本農業新聞社 論説委員	マスコミ・ 流通消費関係者
		菊池奈津美	岩手県産株式会社 らら・いわて盛岡店 店長	マーケティング業界 関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
企業的経営体の育成 《内部評価A》	【清水委員】《評価B》 グループ学習会は良い。	【清水委員】 人材確保のための工夫、案があれば良いのではないかな。	・労働人材確保に向け労務管理に関する支援を継続するとともに、他県の事例等を探索しながら有効な手法を検討していく。
	【千葉委員】《評価A》 水田、野菜、花き、畜産と品目も多いなか、3名で実績をあげていて大変だったと思う。法人の目標「2」に対して実績が「4」なので、この調子で進めて欲しい。	【千葉委員】 -	
	【吉田委員】《評価A》 八幡平普及エリアにおいて、企業的な経営感覚を有する農業者の育成は、中山間地域もあり重要。オーダーメイド型支援は、支援面での個々の課題解決への取組となる。	【吉田委員】 目標設定(達成)で80%のハードルで良いかの判断が難しい。	・100%達成が理想であるが、外部要因等により現実的に困難であることから、引き続き、80%水準とする。
	【宮路委員】《評価A》 個別経営改善指導活動について、支援経営体候補のリストアップ、優先度評価、意向確認に基づく支援経営体の選定が行われるとともに、現状課題の把握→改善提案→支援成果の確認といったサイクルが的確に実施され、改善目標の達成も目標を上回っており、この点は評価できる。	【宮路委員】 経営改善目標については、単年度目標の他、複数年で達成可能な目標もあると考えられるため、継続したフォローアップを期待したい。	・複数年で達成する目標のほか、支援活動の結果、新たな課題(目標)が生じる場合もあることから、経営体のニーズを踏まえ、継続性のある活動を展開していく。
	【上田委員】《評価A》 支援経営体候補のリストアップの仕方として、研修会でのアンケート調査結果を参考にしたり、JA系統外出荷の担い手へアプローチしたりする等、潜在的な支援ニーズを把握しようとする活動姿勢が評価できる。専門家派遣においても、単純な“コーディネート”ではなく、事前の論点整理をした上で、専門家と支援経営体の対話を創り出している点が評価できる。	【上田委員】 集落営農支援については、経営継承に対する意識啓発とセットにししながら、単独組織での継続に止まらず、周辺組織との組織間連携や合併も視野に入れた地域営農の継承を支援する時期にきているのではないかと考えられる。	・地域農業マスタープランの実質化の動きと併せ、関係機関と連携しながら、地域農業のあり方を検討していく。

(2) 第2分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
地域資源を活用した農村ビジネスの振興と農村の活性化 《内部評価B》	【五日市委員】《評価B》 食文化を地域に伝え、産直活性の取組としたこと。食の匠の掘起こしと、食文化の伝承で記録に残す活動である。	【五日市委員】 —	
	【藤澤委員】《評価B》 地域の特色ある取組で面白い。	【藤澤委員】 継続が難しいところもあるが、農業者と共に、新しい考え方で続けて欲しい。	・食の匠候補や食の匠後継者を確保できるよう、地域食文化の把握に努め取組を進めていく。
	【吉野委員】《評価—》 (中座に付き、評価なし)	【吉野委員】 (中座に付き、評価なし)	
	【児玉委員】《評価C》 —	【児玉委員】 成果が未達成なのでB→C評価とした。現場が何に悩み、解決を求めているのか、課題設定を改めた方が良いと思う。	・産直の取組については、改めて各産直の課題を洗い出し、法律改正への対応のみでなく、各販売目標が達成されるための支援方策を早期に定めていきたい。 ・食の匠については、後継者確保も含めて伝統料理の掘り起しを継続していきたい。
	【菊池委員】《評価B》 地域資源、食文化を継承していこうという取組。岩手にとって食文化、食の匠は観光資源でもある。	【菊池委員】 食の匠の継承者の支援の具体策。りんどうの加工品について、今後の販路など目標の明確化。発信して良ければ新しいお土産品としても注目されるように感じた。特にオリンピックのトーチに使用も決まっており、今年発信できる機会はかなりあると思う。	・花っ娘は6次化プランナーの支援から、将来ビジョンを固めつつある。どのように販売していくかも含めて今後も支援を継続していきたい。

3 総括的評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【清水委員】 やる気あふれる若手農家に特に注目して、そこから輪を拡げ、実証普及を行っている。	【清水委員】 －	
【千葉委員】 少ない人数で成果をあげて生産向上に努めている。	【千葉委員】 (1)経営関係の中課題の発表で県重点プロジェクトの関連が薄いものが見られた。個々の活動は成果をあげている。	(非該当)
【吉田委員】 計画を立て、農業普及員の方が先頭になり自ら取組んでいる。ぜひ、地域の農家に定着されることを期待。	【吉田委員】 －	
【宮路委員】 経営改善支援など、全体的に生産者、現場に寄り添った活動内容となっている点は評価できる。	【宮路委員】 経営改善目標等の設定に際しては、生産者と十分なコミュニケーションをとり、必要な改善点等をうまく導き出せるよう意識して活動に取り組まれることを期待したい。	・引き続き生産者との意思疎通を密にしながら、効果的な支援が展開できるよう取り組んでいく。
【上田委員】 担い手や地域に密着し、潜在的な支援ニーズを把握し、支援対象経営体との信頼関係を構築しながら普及活動を実践していることが、各事例から理解できた。	【上田委員】 (指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	

(2) 第2分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【五日市委員】 モデル経営体への支援。	【五日市委員】 モデル経営体の実証情報を発表し、共有する機会を作ってもらいたい。	
【藤澤委員】 各地域の特色に基づき、課題を考え、取組んでいた。	【藤澤委員】 ほとんどの課題が高齢化と若手不足のようであった。これを解決すればいいのではないか。	・女性農業者リストの再調査等により確保に向けた取り組みを継続していきたい。
【吉野委員】 どの報告も重点プロジェクトを意識した報告になっている点は評価できる。	【吉野委員】 初年度なので数値目標のクリアも大切だが、今後の見通しについても、よりつつこんだ分析があれば良かった。 (この他の指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	
【児玉委員】 普及員と農家が信頼関係を構築していることが伺えた。女性就農者が激減している点など岩手県の農業の現状が少し分かった。	【児玉委員】 成果が数字で示されないものがあり、評価の判断が難しかった。 (この他の指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	・女性農業者リストの再調査等により確保に向けた取り組みを継続していきたい。
【菊池委員】 普及センター皆様の地域を良くしていこうという思い、地域の皆様との取り組み、努力を感じた。	【菊池委員】 課題にもう少し踏み込んだ具体策が必要。	・起業の取組は経営判断にまでは踏み込むことが困難であるため、課題と経営者のスキルを見定め、側面支援という立ち位置から可能な限り支援できるよう取り組んでいく

令和元年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

中部農業改良普及センター

1 外部評価の実施状況

(1) 第1分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30		清水一孝	(株)西部開発農産 生産部部长	先進的農業者 【土地利用】
		千葉 丈	全農岩手県本部営農技術課 総合アドバイザー	農業関係団体者 【耕種部門】
実施場所		吉田勝栄	一般社団法人岩手県畜産協会 経営支援部部长	農業関係団体者 【畜産部門】
岩手県農業研究センター 大会議室		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター生産基盤研究領域 技術評価グループ長	学識経験者
		上田賢悦	公立大学法人秋田県立大学 生物資源科学部 准教授	他県比較・ 普及職員育成関係者

(2) 第2分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	産地をけん引する企業的経営体の育成-①企業的経営体の育成《内部評価B》	五日市亮一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者 【組織経営】
	園芸産地の生産構造の変化-③果樹産地の生産構造の強化《内部評価A》	藤澤理平	(有)サン農園 代表取締役	先進的農業者 【園芸流通】
実施場所		吉野英岐	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 学部長・教授	学識経験者
岩手県農業研究センター 2階中会議室		児玉洋子	(株)日本農業新聞社 論説委員	マスコミ・ 流通消費関係者
		菊池奈津美	岩手県産株式会社 らら・いわて盛岡店 店長	マーケティング業界 関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
	【清水委員】《評価》	【清水委員】	
	【千葉委員】《評価》	【千葉委員】	
	【吉田委員】《評価》	【吉田委員】	
	【宮路委員】《評価》	【宮路委員】	
	【上田委員】《評価》	【上田委員】	

(2) 第2分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
産地をけん引する企業的経営体の育成 -①企業的経営体の育成《内部評価B》	【五日市委員】《評価C》 -	【五日市委員】 今まで進めている状況で、実績が未だ出ていないが、今後データのまとめと成果の普及が必要と思われる。	・個別課題の整理とその対応事例を基に体系化し、効率的かつ的確な普及活動が図られるよう取組む
	【藤澤委員】《評価C》 -	【藤澤委員】 取組む範囲が広く大変だと思った。農家が集まりやすい取組のなかで発展できれば良い。	・現在の重点的かつ総合的な活動をリストアップした候補者へ行きわたる活動を継続する。
	【吉野委員】《評価C》 -	【吉野委員】 報告は企業的経営体、中山間での営農体制、GAP、スマート農業と4つのテーマから構成されている。それぞれ大事なテーマではあるが、ではなぜ報告タイトルが、「企業的経営体の育成」になっているのだろうか。企業的経営体の育成対象者数と育成数が示されているが、企業的経営体に地域の農業のどれだけの割合をまかせるのか、その根拠は何なのか、分からなかった。全体のテーマとの関連でいえばスマート農業のなかの環境制御技術の導入を発表の中心にしてもいいと思える。しかし、内容は「やりました」という内容が中心で、コストの話もなく、本当に導入(普及拡大)できるのか良く分からなかった。	・一定販売額を有する地域をけん引する経営体(企業的経営体)を育成するため、新技術、生産管理、労務・雇用管理、財務管理、法人化など総合的に取組む。 ・その中で、中山間地域版として地域事情に適した経営体の育成と手段としてのGAP・スマート農業技術の活用を図り企業的経営体の育成に取組む。
	【児玉委員】《評価B》 -	【児玉委員】 4つの目標が相互関係しているのか、分からない。幅広すぎて評価がしにくい。GAPに取り組んだり、スマート農業の導入経営体を増やしたりすれば農山村の課題がすべて解決するような短絡的な見方になってしまう。課題設定を整理してはどうか。中山間地を担う営農体制が整ったのか、分析などが不十分だった。	・一定販売額を有する地域をけん引する経営体(企業的経営体)を育成するため、新技術、生産管理、労務・雇用管理、財務管理、法人化など総合的に取組む。 ・その中で、中山間地域版として地域事情に適した経営体の育成と手段としてのGAP・スマート農業技術の活用を図り企業的経営体の育成に取組む。
	【菊池委員】《評価B》 高齢化、担い手不足の印象が非常につよくその中で、地道な研修会の実施、セミナー等盛んに取組んでいる。	【菊池委員】 今後収益を上げていくための具体策が必要と感じた。	・個別課題への対応事例を基に体系化し、効率的かつ的確に新技術、生産管理、労務・雇用管理、財務管理、法人化などに取組む。

園芸産地の生産構造の変化-③果樹産地の生産構造の強化《内部評価A》	【五日市委員】《評価B》 —	【五日市委員】 今年度の目標設定について、達成した評価だが、部会・生産者の達成説明が欲しい。生産者、若者後継者の活動が、生産性向上で普及した成果と思う。	・りんご、ぶどうともに、消費ニーズの高い有望品種の導入が、収益向上につながることに、部会等で情報共有を図り、更なる技術向上と波及を狙っていく。
	【藤澤委員】《評価B》 りんごもぶどうも目標に近づいていることは良い。	【藤澤委員】 次の目標への進み方が大変と思う。	・収益性の高い有望品種の生産目標達成はすなわち栽培技術、経営の向上につながると考える。それをもとに、果樹栽培の経営モデルとして組み立て提示していく。 ・更に果樹経営に魅力ある経営モデルの波及により担い手の確保、育成について今後検討していく。
	【吉野委員】《評価B》 中部普及センター管内内およびJA花巻管内のりんごとブドウの生産状況と課題が的確にとらえられている。実態としてりんごの「紅いわて」、「紅ロマン」、「シャインマスカット」が数年にわたり、栽培面積を伸ばしてきていることから、今年度の成績は順調ではあるが、ある意味で当然の結果でもある。	【吉野委員】 「紅いわて」、「紅ロマン」、「シャインマスカット」がどのような規模で、どのような年齢層で、どのような作型をもつ担い手に受け入れられているのかについて、より綿密な分析があると良かった。	・収益性の高い有望品種の生産目標達成は経営の向上につながると考え取り組んでいる。生産目標の達成が果樹経営の向上、ひいては産地の目指す姿への効果等について改めてより綿密な分析を行い、普及指導活動に取り組んでいく。
	【児玉委員】《評価A》 —	【児玉委員】 園地継承を進めるようデータベースの活用成果を出してもらいたい。	・引き続き次年度も他の地域の園地継承データベースの作成に取り組んでいく。 ・併せて地域資源である園地が新規・規模拡大希望者へ円滑に継承されるよう、データベースの有効活用を進めていく。
	【菊池委員】《評価A》 高い収益性の果樹を生産することで若手の育成に取り組む点はかなり分析されている。明確な長期の目標がある点。	【菊池委員】 —	

3 総括的評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【清水委員】	【清水委員】	
【千葉委員】	【千葉委員】	
【吉田委員】	【吉田委員】	
【宮路委員】	【宮路委員】	
【上田委員】	【上田委員】	

(2) 第2分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【五日市委員】 モデル経営体への支援。	【五日市委員】 モデル経営体の実証情報を発表し、共有する機会を作ってもらいたい。	・モデル経営体の情報共有と波及を狙い、研修会等様々な機会をとらえて、情報提供していく。
【藤澤委員】 各地域の特色に基づき、課題を考え、取り組んでいた。	【藤澤委員】 ほとんどの課題が高齢化と若手不足のようであった。これを解決すればいいのではないか。	・意欲的に取り組む農業者の確保が重要な課題と考える。そのためにも魅力ある経営モデルを提示し、後継者、新規就農者の確保、育成に努めていく。
【吉野委員】 どの報告も重点プロジェクトを意識した報告になっている点は評価できる。	【吉野委員】 初年度なので数値目標のクリアも大切だが、今後の見通しについても、よりつっこんだ分析があれば良かった。 (この他の指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	
【児玉委員】 普及員と農家が信頼関係を構築していることが伺えた。女性就農者が激減している点など岩手県の農業の現状が少し分かった。	【児玉委員】 成果が数字で示されないものがあり、評価の判断が難しかった。 (この他の指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	・普及指導活動は、日々の農業者との係わりが大きく、数値で測れない活動が多くなっているが、それらの取り組みの結果が数値として現れることを念頭に、これからも取り組んでいく。
【菊池委員】 普及センター皆様の地域を良くしていこうという思い、地域の皆様との取り組み、努力を感じた。	【菊池委員】 課題にもう少し踏み込んだ具体策が必要。	・今後も、目標達成への進捗状況確認、課題の分析をより詳細に行い、具体的な解決策を見出すよう取り組んでいく。

令和元年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

奥州農業改良普及センター

1 外部評価の実施状況

(1) 第1分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	産地をけん引する企業的経営体の育成 《内部評価B》	清水一孝	(株)西部開発農産 生産部部长	先進的農業者 【土地利用】
	良質粗飼料生産と畜産外部支援組織の機能強化 《内部評価B》	千葉 丈	全農岩手県本部営農技術課 総合アドバイザー	農業関係団体者 【耕種部門】
実施場所		吉田勝栄	一般社団法人岩手県畜産協会 経営支援部部长	農業関係団体者 【畜産部門】
岩手県農業研究センター 大会議室		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター生産基盤研究領域 技術評価グループ長	学識経験者
		上田賢悦	公立大学法人秋田県立大学 生物資源科学部 准教授	他県比較・ 普及職員育成関係者

(2) 第2分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30		五日市亮一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者 【組織経営】
		藤澤理平	(有)サン農園 代表取締役	先進的農業者 【園芸流通】
実施場所		吉野英岐	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 学部長・教授	学識経験者
岩手県農業研究センター 2階中会議室		児玉洋子	(株)日本農業新聞社 論説委員	マスコミ・ 流通消費関係者
		菊池奈津美	岩手県産株式会社 らら・いわて盛岡店 店長	マーケティング業界 関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
産地をけん引する企業的経営体の育成 《内部評価B》	【清水委員】《評価B》 —	【清水委員】 重点農業者へのヒアリングにおける経営上の課題(上位)において、売上(販売額)に関する課題が出てきていないが、課題となっていないと捉えて良いのか。	・課題の整理はカルテの項目に従いまとめたもの。売上(増)に関する課題は規模拡大に伴う法人化、雇用・労働力などの項目に包括されていると認識している。
	【千葉委員】《評価B》 7組織の法人化など成果をあげていると思う。	【千葉委員】 しかし、目標を設定しているのであれば、それについてどうなったかという説明は必要だと思う。	・目標は県南振興局農政部の行動計画と同じく設定し、実績に係る協議が外部評価検討会の前日だったので、省略した。実績は事前提示資料に記載した4事例(5経営体)となる。指摘のとおり、プレゼンでも説明不足だったので今後は留意する。
	【吉田委員】《評価B》 奥州市、金ヶ崎町における支援は重要。	【吉田委員】 —	
	【宮路委員】《評価B》 企業的経営体の育成に向け、普及センターだけではなく、JAなど関係機関との連携体制が構築され、法人化事務の支援などの実践も行われている点は評価できる。	【宮路委員】 企業的経営体の育成には、様々な分野の支援が必要と考えられることから、今後も、専門家派遣も含め関係機関と連携した活動の推進を期待したい。なお、事前提示資料及び当日のプレゼンからも、「到達目標」と「到達目標に対する実績」の達成度の評価が、今一つ明確ではありませんでした。他の課題では、この点が、明確に示されていたので、この点ご配慮頂きたい。	・目標は県南振興局農政部の行動計画と同じく設定し、実績に係る協議が外部評価検討会の前日だったので、省略した。実績は事前提示資料に記載した4事例(5経営体)となる。指摘のとおり、プレゼンでも説明不足だったので今後は留意する。
	【上田委員】《評価B》 集落営農組織の法人化は、十分な成果であり評価できる。様式1の資料にもしっかりと明記して欲しい。	【上田委員】 経営改善目標に達しなくても、経営内容の数値の変化や経営行動の変化等の定量的・定性的な変化があるのならば、P11の活動実績に明記することが望ましい。そのために、単に「支援対象を3つ確保する」というような活動目標の設定ではなく、「普及活動によって定量的・定性的な経営上の変化が確認できた支援経営体を3つ確保する」というような行動目標の設定はいかがだろうか。	・目標の設定、実績の評価は上記のとおり、県南振興局農政部と協議して進めている。実績については規模拡大等の経営改善に向けて具体的な行動を始めた経営体を掲げている。説明不足だったが、提案のように行動目標の設定をしている。

良質粗飼料生産と畜産外部支援組織の機能強化《内部評価B》	【清水委員】《評価B》	【清水委員】 草地とデントコーン圃場の、「栽培面積」と「想定される収穫量」と「目標とする収穫量」が明確になっていれば、より具体的に作業の段取りが組めるのではないかと。1日の作業量の目標値設定で、作業初級者の作業効率改善を図ることを検討すれば良いのではないかと。	・今後GIS等の活用を通じて作業効率化の支援を進める。 ・若手作業員については、作業量ではなく、飼料作物の栽培基礎知識が必要なことから、この点において支援を継続する。
	【千葉委員】《評価B》 —	【千葉委員】 粗飼料といえども品質は重要なので、良質生産の指導を今後も行ってほしい。	・今後も収量・品質の維持・向上と作業の効率化を両立することを目指して活動に取り組む。
	【吉田委員】《評価B》 外部支援組織の運営支援は重要。	【吉田委員】 流通粗飼料生産について内容の充実。	・現在支援対象は自給飼料のみを作業対象にしているため、流通粗飼料の取り扱いはないが、今後流通が行われる場合は支援を検討する。
	【宮路委員】《評価B》 当課題では、公共牧場やコントラクターなどの外部支援組織の課題解決が主な目標となっており、良質粗飼料生産に向けた栽培指導や品質向上対策に取り組み、収量向上や品質向上を達成した点は評価できる。	【宮路委員】 今後、作業面積の増加も想定される中で、収量・品質の維持・向上と作業の効率化を両立させるには、新たな課題が出てくることも想定されるが、両立に向け継続した取り組みを期待したい。	・今後も収量・品質の維持・向上と作業の効率化を両立することを目指して活動に取り組む。
	【上田委員】《評価B》 技術的な視点からも、円滑な事業推進という視点からもアプローチする効果的な普及活動であると評価できる。	【上田委員】 しかし、技術的な観点からの活動内容や成果の記述が多く、技術の支援者としては評価ができるが、地域サポートチーム活動を通じて支援対象経営体をどのように支援したのか、そのために地域サポートチームをどのように動かしたのか、というマネジメントの観点からの活動内容の記述が普及活動の厚みをアピールできるのではないかと。到達目標の「家畜預託施設の機能強化(良質粗飼料確保対策に着手)」には、「着手する」という経営行動を誘導できたことを成果としているのか。定量的でも定性的な内容でも構わないが、具体的な目標を明記したほうが良いのではないかと。	・今後一層の関係機関の連携を図りながら普及活動の記述にも留意し、取り組んでいく。 ・今後、目標の設定はできるだけ具体的な内容にするよう検討する。

(2) 第2分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
	【五日市委員】《評価》	【五日市委員】	
	【藤澤委員】《評価》	【藤澤委員】	
	【吉野委員】《評価》	【吉野委員】	
	【児玉委員】《評価》	【児玉委員】	
	【菊池委員】《評価》	【菊池委員】	

3 総括的評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【清水委員】 やる気あふれる若手農家に特に注目して、そこから輪を拡げ、実証普及を行っている。	【清水委員】 -	
【千葉委員】 少ない人数で成果をあげて生産向上に努めている。	【千葉委員】 (1)経営関係の中課題の発表で県重点プロジェクトの関連が薄いものが見られた。個々の活動は成果をあげている。	・従来の、支援手法に関する情報提供や担当者の支援能力向上などの連携を濃密に行いたい。
【吉田委員】 計画を立て、農業普及員の方が先頭になり自ら取組んでいる。ぜひ、地域の農家に定着されることを期待。	【吉田委員】 -	
【宮路委員】 経営改善支援など、全体的に生産者、現場に寄り添った活動内容となっている点は評価できる。	【宮路委員】 経営改善目標等の設定に際しては、生産者と十分なコミュニケーションをとり、必要な改善点等をうまく導き出せるよう意識して活動に取り組まれることを期待したい。	・生産者と十分なコミュニケーションを取るなど指摘されたとおり、今後も活動に取り組む。
【上田委員】 担い手や地域に密着し、潜在的な支援ニーズを把握し、支援対象経営体との信頼関係を構築しながら普及活動を実践していることが、各事例から理解できた。	【上田委員】 (指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	

(2) 第2分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【五日市委員】	【五日市委員】	
【藤澤委員】	【藤澤委員】	
【吉野委員】	【吉野委員】	
【児玉委員】	【児玉委員】	
【菊池委員】	【菊池委員】	

令和元年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

二関農業改良普及センター

1 外部評価の実施状況

(1) 第1分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	企業的経営体の育成、経営力向上及び経営基盤強化に対する支援 《内部評価A》	清水一孝	(株)西部開発農産 生産部部长	先進的農業者 【土地利用】
		千葉 丈	全農岩手県本部営農技術課 総合アドバイザー	農業関係団体者 【耕種部門】
実施場所		吉田勝栄	一般社団法人岩手県畜産協会 経営支援部部长	農業関係団体者 【畜産部門】
岩手県農業研究センター 大会議室		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター生産基盤研究領域 技術評価グループ長	学識経験者
		上田賢悦	公立大学法人秋田県立大学 生物資源科学部 准教授	他県比較・ 普及職員育成関係者

(2) 第2分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	消費者・実需者ニーズを踏まえた戦略的な産地形成への支援(果樹) 《内部評価B》	五日市亮一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者 【組織経営】
		藤澤理平	(有)サン農園 代表取締役	先進的農業者 【園芸流通】
実施場所		吉野英岐	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 学部長・教授	学識経験者
岩手県農業研究センター 2階中会議室		児玉洋子	(株)日本農業新聞社 論説委員	マスコミ・ 流通消費関係者
		菊池奈津美	岩手県産株式会社 らら・いわて盛岡店 店長	マーケティング業界 関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
企業の経営体の育成、経営力向上及び経営基盤強化に対する支援《内部評価A》	【清水委員】《評価A》 5年後にとらわれず、単年度の経営計画をしっかり作成することは非常に評価できる。技術担当と経営担当のセット指導は評価できる。	【清水委員】 －	
	【千葉委員】《評価A》 －	【千葉委員】 26経営体に入っているのも成果だと思う。	・提言に沿い、選定した企業の経営体以外の経営体に対する支援も、地域の動きとして評価する。
	【吉田委員】《評価A》 社会保険労務士による雇用確保。	【吉田委員】 将来的に大規模経営を志向する企業の経営体について、3経営体としたところを知りたかった。	・確実な成果とするため、支援対象の意向を詳細に把握し、重点指導できることを確認して、3経営体を選定したもの。
	【宮路委員】《評価A》 企業の経営体育成について、技術担当と経営担当のセットでの対応や必要に応じた専門家派遣の要請の他、支援する事項を明確化するなどメリハリのきいた対応を行っている点は評価できる。	【宮路委員】 労力など限られた資源の中で重点的に支援する方法も一つの方向と考えられ、企業の経営体の育成に向け、継続した活動を期待したい。	・提言に沿い、継続した活動を実施する。
	【上田委員】《評価A》 当該普及センターによる「技術担当」と「経営担当」のセット活動は、担当者相互の理解や所内の共通認識が持てなければ、実施するは困難である。その点で、理想的な個別経営体育成活動を行っている事例として、高く評価できる。	【上田委員】 単年度経営計画において指導項目を明確にする手法をさらに拡充し、バックキャストの視点から、個別指導の中で中長期計画を立案・共有し、そこを起点として単年度計画を立案していくことが望ましいのではないかと。時間はかかるが、経営継承計画にもつながるし、課題となっているモニタリング(経営改善に向けた継続支援)にもつながると考えられる。	・提言を活かし、バックキャストの視点となるよう、中長期計画や経営ビジョンを立案、あるべき姿とその実現に向け、具体的改善項目を明確にすることで、企業の経営体としての経営が早期に確立されるよう、継続した活動を行う。

(2) 第2分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
消費者・実需者ニーズを踏まえた戦略的な産地形成への支援(果樹)《内部評価B》	【五日市委員】《評価B》 —	【五日市委員】 紅いわてのサビ対策については、省力しての対策を試行錯誤中という答え。現場生産者の切実な問題課題であり、普及指導でも課題と思われる。解決のため、普及での現場問題について、早急に対処を示すように、普及内部で協議して生産者に示して欲しい。現場生産者の声(販売方法の情報収集)を聞きまとめる必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・サビ対策は、県下共通の課題であるため、革新支援担当等と協力のうえ解決に取り組み、得られた成果は迅速に生産者や部会と共有する。 ・経営者の意向を踏まえ、実需者ニーズの把握と提供に努める。
	【藤澤委員】《評価B》 若手の取組と、産地形成の取組が分かりやすかった。	【藤澤委員】 —	
	【吉野委員】《評価B》 発表資料のなかで、りんごの植栽本数割合とりんごの平均単価のグラフはわかりやすい。	【吉野委員】 発表タイトルの「消費者・実需者ニーズ」ということについて、資料ではあまり触れられていない。推奨品種である「紅ロマン」「紅いわて」「恋ふじ」「青林」「金星」が単価が平均よりも高いのは分かったが、「ふじ」を切ってまで改植するかどうかは分からなかった。データでは31年以上のふじの割合が22.5%と高いのは分かったが、他の品種ではどうなのだろうか。改植の動きがもうすこし具体的に分かるような資料の作り方も必要であろう。NOSAI樹園地管理システムによる植栽図は貴重なので、ぜひ植栽状況の見える化を進めて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・提言を活かし、消費者・実需者ニーズを把握するよう努める。 ・品種特性を踏まえ、改植のメリットを、より分かりやすく生産者に説明する。 ・提言に沿って、NOSAI樹園地管理システムの有効性を波及していく。
	【児玉委員】《評価B》 説明が分かりやすかった。	【児玉委員】 課題設定が「消費者・実需者ニーズをふまえた戦略的な産地形成への支援」とあるが、市場や消費者が何を求めているかの記述がなく、調査してあれば書いて欲しかった。「紅いわて」のサビ対策に袋掛けするのでは省力化とは逆行する。栽培品種が多いことを逆手にとったマーケティングも必要だ。直売所に出荷する場合は、こうした産地に強みがあると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・提言を活かし、消費者・実需者ニーズを把握するよう努める。(再掲) ・サビ対策は、県下共通の課題であるため、革新支援担当等と協力のうえ解決に取り組み、得られた成果は迅速に生産者や部会と共有する。(再掲) ・経営者の意向を踏まえ、実需者ニーズの把握と提供に努める。(再掲)
	【菊池委員】《評価B》 地域オリジナル品種があり差別化を図っている、地域の強みで期待される。	【菊池委員】 担い手の支援。	<ul style="list-style-type: none"> ・産地の核となる担い手に対し、引き続き支援を継続していく。

3 総括的評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【清水委員】 やる気あふれる若手農家に特に注目して、そこから輪を拡げ、実証普及を行っている。	【清水委員】 －	
【千葉委員】 少ない人数で成果をあげて生産向上に努めている。	【千葉委員】 (1)経営関係の中課題の発表で県重点プロジェクトの関連が薄いものが見られた。個々の活動は成果をあげている。	・県の方針を踏まえつつ、地域で成果となるよう、県重点プロジェクトとの連携を濃密に行う。
【吉田委員】 計画を立て、農業普及員の方が先頭になり自ら取組んでいる。ぜひ、地域の農家に定着されることを期待。	【吉田委員】 －	
【宮路委員】 経営改善支援など、全体的に生産者、現場に寄り添った活動内容となっている点は評価できる。	【宮路委員】 経営改善目標等の設定に際しては、生産者と十分なコミュニケーションをとり、必要な改善点等をうまく導き出せるよう意識して活動に取り組まれることを期待したい。	・提言に沿って、経営者とのコミュニケーションを重視し、取り組みたい。
【上田委員】 担い手や地域に密着し、潜在的な支援ニーズを把握し、支援対象経営体との信頼関係を構築しながら普及活動を実践していることが、各事例から理解できた。	【上田委員】 (指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	

(2) 第2分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【五日市委員】 モデル経営体への支援。	【五日市委員】 モデル経営体の実証情報を発表し、共有する機会を作ってもらいたい。	・得られた成果は迅速に生産者や部会と共有する。
【藤澤委員】 各地域の特色に基づき、課題を考え、取組んでいた。	【藤澤委員】 ほとんどの課題が高齢化と若手不足のようであった。これを解決すればいいのではないか。	・引き続き、担い手確保対策に努める。
【吉野委員】 どの報告も重点プロジェクトを意識した報告になっている点は評価できる。	【吉野委員】 初年度なので数値目標のクリアも大切だが、今後の見通しについても、よりつっこんだ分析があればよかった。 (この他の指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	
【児玉委員】 普及員と農家が信頼関係を構築していることが伺えた。女性就農者が激減している点など岩手県の農業の現状が少し分かった。	【児玉委員】 成果が数字で示されないものがあり、評価の判断が難しかった。 (この他の指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	・数字で示すことができる成果は、示すように努める。
【菊池委員】 普及センター皆様の地域を良くしていこうという思い、地域の皆様との取り組み、努力を感じた。	【菊池委員】 課題にもう少し踏み込んだ具体策が必要。	・提言に沿い、具体策を示すように努める。

令和元年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

大船渡農業改良普及センター

1 外部評価の実施状況

(1) 第1分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30		清水一孝	(株)西部開発農産 生産部部长	先進的農業者 【土地利用】
		千葉 丈	全農岩手県本部営農技術課 総合アドバイザー	農業関係団体者 【耕種部門】
実施場所		吉田勝栄	一般社団法人岩手県畜産協会 経営支援部部长	農業関係団体者 【畜産部門】
岩手県農業研究センター 大会議室		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター生産基盤研究領域 技術評価グループ長	学識経験者
		上田賢悦	公立大学法人秋田県立大学 生物資源科学部 准教授	他県比較・ 普及職員育成関係者

(2) 第2分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	大規模園芸経営体の育成 《内部評価C》	五日市亮一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者 【組織経営】
	農村起業活動支援 《内部評価B》	藤澤理平	(有)サン農園 代表取締役	先進的農業者 【園芸流通】
実施場所		吉野英岐	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 学部長・教授	学識経験者
岩手県農業研究センター 2階中会議室		児玉洋子	(株)日本農業新聞社 論説委員	マスコミ・ 流通消費関係者
		菊池奈津美	岩手県産株式会社 らら・いわて盛岡店 店長	マーケティング業界 関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
	【清水委員】《評価》	【清水委員】	
	【千葉委員】《評価》	【千葉委員】	
	【吉田委員】《評価》	【吉田委員】	
	【宮路委員】《評価》	【宮路委員】	
	【上田委員】《評価》	【上田委員】	

(2) 第2分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
大規模園芸経営体の育成 《内部評価C》	【五日市委員】《評価C》 —	【五日市委員】 企業の会社の取組で、現場指導者がカイゼンの取組み、問題点の見える化、作業指示を明確にする仕組みを、今後充実していく指導が必要。実施した成果の数値を出して欲しい。成果を普及していく方向を示して欲しい。	・カイゼンの取組については、「収支状況の把握と改善方策の検討」の中で、経営体の意向を踏まえ、充実した指導となるよう努める。 ・また、カイゼン指導の成果を数値で把握するよう努める。
	【藤澤委員】《評価B》 —	【藤澤委員】 地域農業の課題について、これからの解決が進むことを期待。若手農業者との取組に係る成果が、もっと欲しかった。	・若手農業者を対象とした巡回指導の充実などにより、施設栽培や環境制御技術の導入促進に努める。
	【吉野委員】《評価B》 定期的に巡回するなど、日々熱心に指導している姿は伝わってきた。トマト、イチゴとも目標単収には届いていないが、熱心に向かって取り組んでいることは評価できる。高糖度トマトの試食もしたが、品質も良かった。	【吉野委員】 そのうえで、陸前高田市で栽培したトマトはどのくらい市場価値をもっているのか、そして将来的には気仙地方でどれくらいのトマトのシェアを持つことを想定しているのかがはっきり伝わってこなかった。なぜ、なんのためにトマトをつくり、その将来像をどこにおくのか、販路の確保も含めて作ってから考えるのではなく、予めプランを示すことも必要ではないか。	・トマトの販路等については、市・JA・県等で構成する「陸前高田市大規模園芸施設運営協議会」において検討し、検討結果を基に、関係機関と連携した活動を行う。
	【児玉委員】《評価B》 発表に意気込みが感じられ、分かりやすかった。目標単収を一度も達成したことがないということで、経験がないままに先進技術ハウスが導入されたのか、そこを再建したことは評価できる。普及センターで、なぜ高糖度トマトが収穫できないかの原因を把握し、それを指導者だけでなく全職員を参加させて勉強会を開いたことを評価。栽培指導の責任者にも自覚が生まれ、指示を出せるようになった。社内の雰囲気もいい方向に変わったと受け止めた。経営体との信頼関係を構築できた成果も大きい。	【児玉委員】 ここをモデルに高糖度トマトの環境制御技術が浸透していくことを期待する。	・陸前高田市大規模園芸施設の単収目標が早期に達成され、この取り組みが、地域のモデルとなり、施設栽培が広く地域に波及されるよう、今後も指導を継続する。
	【菊池委員】《評価C》 全職員の勉強会参加、意識の高さがうかがえる。	【菊池委員】 今後他との差別化や販路をどのようにしていくのかももう少し突き詰めていく必要性を感じた。	・トマトの販路等については、市・JA・県等で構成する「陸前高田市大規模園芸施設運営協議会」において検討し、検討結果を基に、関係機関と連携した活動を行う。

農村起業活動支援 《内部評価B》	【五日市委員】《評価B》 毎月定例会誘導、起業者チェックシート活用など、調査やデータ収集を評価。PDCAサイクルの実践で目標達成がなされたことを評価。	【五日市委員】 —	
	【藤澤委員】《評価B》 —	【藤澤委員】 2経営体がモデルとなり、地域の発展と女性の活躍に繋がりが良いと思う。	・2経営体の起業活動の発展とともに地域活性化につながるよう方向性を定め、支援を継続する。
	【吉野委員】《評価—》 (中座に付き、評価なし)	【吉野委員】 (中座に付き、評価なし)	
	【児玉委員】《評価B》 あゆみ工房の総菜部門に1人、若いメンバーが入ってきたことは明るいきざしだと思う。メンバーの勧誘として高校や短大卒業生にも声掛けしたらどうか。持続可能な企業活動には必要と思う。	【児玉委員】 5年後の目標販売額400万円だが、メンバーが無理なく続けられるという額なのでそれはそれで尊重したい。それを普及センターはどう支援していくのか、工程表が欲しい。	・来年度の活動支援に際し、5年後の目標販売額の設定を上げ、達成するための対策を更に具体化していく。 ・特に、代表の担う役割を整理し、計画的に引き継げるように誘導し、地域の方に声掛けするなど構成員の確保を進めていく。
	【菊池委員】《評価B》 研修会に参加しながら、弱みを克服しスタッフのモチベーションの底上げ、労働環境の改善がなされた。	【菊池委員】 商品の価格設定の見直し。目標を設定した販売と商品開発(売り先、ターゲット)。	・支援経営体に対し、商品の原価計算の定着を促すとともに、価格交渉の前に市場調査を確実に行うよう働きかける。

3 総括的評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【清水委員】	【清水委員】	
【千葉委員】	【千葉委員】	
【吉田委員】	【吉田委員】	
【宮路委員】	【宮路委員】	
【上田委員】	【上田委員】	

(2) 第2分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【五日市委員】 モデル経営体への支援。	【五日市委員】 モデル経営体の実証情報を発表し、共有する機会を作ってもらいたい。	・モデル経営体における実証情報の共有については、個人情報保護を踏まえ、モデル経営体の意向を確認したうえで対応する。
【藤澤委員】 各地域の特色に基づき、課題を考え、取り組んでいた。	【藤澤委員】 ほとんどの課題が高齢化と若手不足のようであった。これを解決すればいいのではないか。	・若手農業者を対象とした巡回指導の充実などにより、施設栽培や環境制御技術の導入促進に努める。
【吉野委員】 どの報告も重点プロジェクトを意識した報告になっている点は評価できる。	【吉野委員】 初年度なので数値目標のクリアも大切だが、今後の見通しについても、よりつっこんだ分析があれば良かった。 (この他の指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	
【児玉委員】 普及員と農家が信頼関係を構築していることが伺えた。女性就農者が激減している点など岩手県の農業の現状が少し分かった。	【児玉委員】 成果が数字で示されないものがあり、評価の判断が難しかった。 (この他の指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	・普及指導活動の成果については、数値での把握に努める。
【菊池委員】 普及センター皆様の地域を良くしていこうという思い、地域の皆様との取り組み、努力を感じた。	【菊池委員】 課題にもう少し踏み入った具体策が必要。	・支援対象の意向を十分に踏まえ、あるべき姿や工程を明確にした普及指導活動に努める。

令和元年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

宮古農業改良普及センター

1 外部評価の実施状況

(1) 第1分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	地域特性を生かした農畜産物の産地力向上(低コスト、GAP、ICT)《内部評価A》	清水一孝	(株)西部開発農産 生産部部长	先進的農業者 【土地利用】
	地域特性を生かした農畜産物の産地力向上(畜産)《内部評価B》	千葉 丈	全農岩手県本部営農技術課 総合アドバイザー	農業関係団体者 【耕種部門】
実施場所		吉田勝栄	一般社団法人岩手県畜産協会 経営支援部部长	農業関係団体者 【畜産部門】
岩手県農業研究センター 大会議室		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター生産基盤研究領域 技術評価グループ長	学識経験者
		上田賢悦	公立大学法人秋田県立大学 生物資源科学部 准教授	他県比較・ 普及職員育成関係者

(2) 第2分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30		五日市亮一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者 【組織経営】
		藤澤理平	(有)サン農園 代表取締役	先進的農業者 【園芸流通】
実施場所		吉野英岐	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 学部長・教授	学識経験者
岩手県農業研究センター 2階中会議室		児玉洋子	(株)日本農業新聞社 論説委員	マスコミ・ 流通消費関係者
		菊池奈津美	岩手県産株式会社 らら・いわて盛岡店 店長	マーケティング業界 関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
地域特性を生かした農畜産物の産地力向上(低コスト、GAP、ICT)《内部評価A》	【清水委員】《評価B》 若い農業者のやる気のある取組に追随して取組んでいることは評価できる。	【清水委員】 ベテラン農家さんを上手く巻き込んでいく仕組みを作り上げていただきたい。	・各作目の部会研修会等を通じて今後も啓発を継続する。 ・GAP認証後の成果を数値化するなどして啓発を図る。
	【千葉委員】《評価A》 大変お世話になった。生産者だけでなく、JA職員のレベルアップにもつながった。	【千葉委員】 -	
	【吉田委員】《評価A》 目指す目標を世界と高く設定している。SNS、動画の活用。物量によってでもあるが、流通も考えている。	【吉田委員】 生産者自らの取組(が弱い)。普及の努力によるもの。	・生産者が取組成果を実感しており、次期更新に向け主体的に動き出しているため、サポートを継続する。
	【宮路委員】《評価A》 生産者に対し、GAP認証取得の意義、経営改善への効果を具体的にわかりやすく、丁寧に説明することは、GAP取得への意識の醸成やGAP取得を達成するうえで重要な点であると考え。宮古普及センターにおける活動では、この点が丁寧に生産者に対して示されており評価できる。	【宮路委員】 今後も、新たにGAP取得を目指す生産者に対し、取得の意義と効果を具体的に丁寧に紹介し、活動に取り組みを期待したい。	・既に把握している志向者を確実に認証、確認登録に導き、普及を行う。 ・今後も各作目の部会研修会等を通じて、取得の意義と効果を具体的に説明しながら啓発を継続する。
	【上田委員】《評価A》 GAPグループ活動支援からSNSの活用など、非常に興味深い普及活動を実践されており、もっと時間をとって報告を聞いてみたいと感じさせた。特に、「グループ活動の中で参加者(農業者)が相互啓発を図る」ことへの支援は、「考える農家をつくる」普及活動の王道であると評価できる。	【上田委員】 -	
地域特性を生かした農畜産物の産地力向上(畜産)《内部評価B》	【清水委員】《評価B》 -	【清水委員】 指導だけでなく、農業者同士で意見交換、交流できる機会を作ることも重要ではないか。	・本年度開催した、年数回の研修による講座「牛塾」に続き次年度も研修会などにより管内農業者を参集する企画を実施する予定なので、提言事項の内容となるように研修の持ち方を検討する。
	【千葉委員】《評価B》 -	【千葉委員】 短角増に期待する。	・放牧地の草地管理指導や省力管理技術の実証、導入を通じて、生産者の増頭意欲向上を図る。
	【吉田委員】《評価B》 山間地域での取組は重要。	【吉田委員】 4月と12月で繁殖成績が大幅に向上は、定期巡回によるものであれば、次年度成績を期待したい。	・今後も定期巡回を継続して改善指導を行い、一層の繁殖成績向上を進める。
	【宮路委員】《評価B》 地域の実態から、将来を見据えた課題、支援対象の選定を行い、定期巡回などの地道な活動が行われている点は評価できる。	【宮路委員】 支援対象農家の分娩間隔の短縮や乳量向上を実現するためには、基本的な飼養管理方法の指導など地道な対応が必要と考えられるため、今後も継続した取り組みを期待したい。	・支援対象農家毎の個別課題を明確にし、基本的な飼養管理方法の改善も含めた課題解決支援を行う。 ・乳量、乳質向上にむけては、バルク乳細菌検査による衛生管理指導やATP検査、ラクトコーダーの活用による搾乳改善提案等により、基本的な飼養管理に視点を置いた支援を行う。
	【上田委員】《評価B》 担い手個々に密着して、技術的な視点からアプローチする効果的な普及活動であると評価できる。	【上田委員】 できれば、地域サポートチーム活動を通じて支援対象経営体をどのように支援したのか、そのために地域サポートチームをどのように動かしたのか、というマネジメントの観点からの活動内容の記述が普及活動の厚みをアピールできるのではないか。	・地域サポートチームは協働する関係機関職員で構成している。支援対象経営体に対しては、定期巡回時に普及センターは主に技術面、他の協働機関は事業活用、販売対策等についてアドバイスを行って総合的な支援活動を継続する。

(2) 第2分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
/	【五日市委員】《評価》	【五日市委員】	
	【藤澤委員】《評価》	【藤澤委員】	
	【吉野委員】《評価》	【吉野委員】	
	【児玉委員】《評価》	【児玉委員】	
	【菊池委員】《評価》	【菊池委員】	

3 総合的評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【清水委員】 やる気あふれる若手農家に特に注目して、そこから輪を拡げ、実証普及を行っている。	【清水委員】 -	
【千葉委員】 少ない人数で成果をあげて生産向上に努めている。	【千葉委員】 (1)経営関係の中課題の発表で県重点プロジェクトの関連が薄いものが見られた。個々の活動は成果をあげている。	・指摘を踏まえていく。
【吉田委員】 計画を立て、農業普及員の方が先頭になり自ら取組んでいる。ぜひ、地域の農家に定着されることを期待。	【吉田委員】 -	
【宮路委員】 経営改善支援など、全体的に生産者、現場に寄り添った活動内容となっている点は評価できる。	【宮路委員】 経営改善目標等の設定に際しては、生産者と十分なコミュニケーションをとり、必要な改善点等をうまく導き出せるよう意識して活動に取り組まれることを期待したい。	・JA等の協働機関と共に、個別営農相談会等を通じ、実績と今後の経営計画、課題解決事項を生産者と共有して目標達成に向けた活動に取り組む。 ・経営上の課題の掘り下げができるよう、若手普及員とベテラン普及員とのセット活動を進める。
【上田委員】 担い手や地域に密着し、潜在的な支援ニーズを把握し、支援対象経営体との信頼関係を構築しながら普及活動を実践していることが、各事例から理解できた。	【上田委員】 (指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	

(2) 第2分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【五日市委員】	【五日市委員】	
【藤澤委員】	【藤澤委員】	
【吉野委員】	【吉野委員】	
【児玉委員】	【児玉委員】	
【菊池委員】	【菊池委員】	

令和元年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

久慈農業改良普及センター

1 外部評価の実施状況

(1) 第1分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	酪農及び和牛繁殖経営体の生産性向上 《内部評価B》	清水一孝	(株)西部開発農産 生産部部长	先進的農業者 【土地利用】
		千葉 丈	全農岩手県本部営農技術課 総合アドバイザー	農業関係団体者 【耕種部門】
実施場所		吉田勝栄	一般社団法人岩手県畜産協会 経営支援部部长	農業関係団体者 【畜産部門】
岩手県農業研究センター 大会議室		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター生産基盤研究領域 技術評価グループ長	学識経験者
		上田賢悦	公立大学法人秋田県立大学 生物資源科学部 准教授	他県比較・ 普及職員育成関係者

(2) 第2分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	産地直売所の販売額の維持・拡大 《内部評価C》	五日市亮一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者 【組織経営】
		藤澤理平	(有)サン農園 代表取締役	先進的農業者 【園芸流通】
実施場所		吉野英岐	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 学部長・教授	学識経験者
岩手県農業研究センター 2階中会議室		児玉洋子	(株)日本農業新聞社 論説委員	マスコミ・ 流通消費関係者
		菊池奈津美	岩手県産株式会社 らら・いわて盛岡店 店長	マーケティング業界 関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
酪農及び和牛繁殖経営体の生産性向上《内部評価B》	【清水委員】《評価B》 —	【清水委員】 省力化の技術(24時間体制から8時間体制や交代制の働き方)は進んでいるのか。	・ICT等省力化技術の活用支援を継続する中で、技術導入による効果の把握も併せて進めていく。
	【千葉委員】《評価B》 —	【千葉委員】 分娩間隔が9日も短くなったが、県平均からすればもっと短くなることも可能。メガファームがあるので、指導に期待する。	・分娩間隔の短縮につながる取組は継続していく。 ・酪農のメガファームは、課題「地域農業を担う経営体の育成」で個別経営改善支援活動の対象としている。
	【吉田委員】《評価B》 モニタリング(回数)の多く行われている効果。	【吉田委員】 外部支援組織は県としての位置付けもあり、資料間で説明があれば。	・外部支援組織は、課題「地域農業を担う経営体の育成」で個別経営改善支援活動の対象としている。
	【宮路委員】《評価B》 当課題も支援対象農家の分娩間隔の短縮や乳量の向上などが到達目標となっており、その達成に向けてモニタリング活動や改善提案が積極的に行われている点は評価できる。	【宮路委員】 やはり、分娩間隔の短縮や乳量の向上を実現するためには、飼養管理方法などの地道な指導が必要と考えられるため、今後も継続した取り組みを期待したい。	・乳牛及び和牛繁殖雌牛の飼養管理技術や、子牛の哺育期管理技術の改善指導を継続し、引き続き生産性の向上を図っていく。
	【上田委員】《評価A》 到達目標の設定を、①県重点プロジェクトと同一項目、②当該地域課題計画のオリジナル項目をそれぞれ置いており、当該地域課題計画の成果が、県全体の到達目標にどの程度寄与しているのか、地域的な背景によるオリジナルの到達目標に対してはどの程度寄与したのか、それぞれ判断できる。	【上田委員】 —	

(2) 第2分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
産地直売所の販売額の維持・拡大 《内部評価C》	【五日市委員】《評価B》 産直の役員会に普及員が出席したことは評価。	【五日市委員】 産直構成員の高齢化に伴い、販売物の出展が減少しており、産直で集荷するという問題解決に期待。しかし、今年度は実施できなかったという説明であったので、来年度は実施して報告してもらいたい。	・新たな集荷システムの構築に向けて、産直間連携も検討しながら、集荷試験を行っていく。
	【藤澤委員】《評価B》 将来に向けた取組である。	【藤澤委員】 地域課題と共にある、新しいシステムでの発展を期待する。	・新たな集荷システムの構築に向けて、産直間連携も検討しながら、集荷試験を行っていく。
	【吉野委員】《評価C》	【吉野委員】 対象産直の販売の実態とその要因は細かく分析されており、課題はかっさしているが、解決には至っていないのが現状のようである。「産直まらかか」の販売額の低迷の要因として、きのこの不作、高齢化による出荷者の減少があげられているが、出荷手数料率の高さも要因になっている可能性も考えられる。そのあたりの分析も必要ではないか。プレゼン資料について、グラフと写真が他の報告と比べても少ない印象がある。短時間の発表で内容を伝えていくために写真やグラフをもっと使ってみてはどうか。	・産直運営改善の実施支援として、改善内容の整理に対して助言・指導することとしており、提言のあった分析についても可能な限り対応していく。 ・プレゼンテーションの資料に係る提言については、今後の参考とする。
	【児玉委員】《評価C》 —	【児玉委員】 直売所の売り上げを伸ばすためには、品ぞろえ確保が第一だ。断念したという集荷に取り組まなければならないでしょう。予定しているようなので、市の助成金など活用できるものを使って。新規出荷者の確保には、定年退職者や新規就農者を掘り起こして、栽培講習会を開いてはどうか。管内の19施設の直売所が商品を融通しあうこともありだ。地域による特産物を栽培し、加工品を作り、それを提携直売所にも出荷できるようにすれば売り先が広がり、所得増になる。	・新たな集荷システムの構築に向けて、産直間連携も検討しながら、集荷試験を行っていく。 ・野菜栽培研修会は、消費者ニーズに対応した品揃えの充実に向けて開催することとしており、出荷者の確保の視点でも取り組んでいく。 ・品揃えの充実のための産直間連携については、産直運営の改善案のひとつとして念頭に置いて取り組んでいく。
	【菊池委員】《評価C》 現状の課題が明確化され、取り組む方向性もはっきりしている。	【菊池委員】 出荷者の高齢化に伴い集荷の取り組みも実際は現実化が難しいと感じた。また、新規の出荷者確保については、販路拡大を目指すためには早急に取り組まなければならない課題。	・新たな集荷システムの構築に向けて、産直間連携も検討しながら、集荷試験を行っていく。 ・出荷者の確保に向けた支援は、地域の協議会と連携して引き続き取り組んでいく。

3 総括的評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【清水委員】 やる気あふれる若手農家に特に注目して、そこから輪を拡げ、実証普及を行っている。	【清水委員】 －	
【千葉委員】 少ない人数で成果をあげて生産向上に努めている。	【千葉委員】 (1)経営関係の中課題の発表で県重点プロジェクトの関連が薄いものが見られた。個々の活動は成果をあげている。	
【吉田委員】 計画を立て、農業普及員の方が先頭になり自ら取組んでいる。ぜひ、地域の農家に定着されることを期待。	【吉田委員】 －	
【宮路委員】 経営改善支援など、全体的に生産者、現場に寄り添った活動内容となっている点は評価できる。	【宮路委員】 経営改善目標等の設定に際しては、生産者と十分なコミュニケーションをとり、必要な改善点等をうまく導き出せるよう意識して活動に取り組まれることを期待したい。	・生産者との十分なコミュニケーションについては、個別経営改善支援活動等に際して、とくに留意しながら取り組んでいく。
【上田委員】 担い手や地域に密着し、潜在的な支援ニーズを把握し、支援対象経営体との信頼関係を構築しながら普及活動を実践していることが、各事例から理解できた。	【上田委員】 (指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	

(2) 第2分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【五日市委員】 モデル経営体への支援。	【五日市委員】 モデル経営体の実証情報を発表し、共有する機会を作ってもらいたい。	・モデル経営体における実証結果については、JAの生産部会等と連携して情報共有を図っていく。
【藤澤委員】 各地域の特色に基づき、課題を考え、取組んでいた。	【藤澤委員】 ほとんどの課題が高齢化と若手不足のようであった。これを解決すればいいのではないか。	・担い手の問題については、課題「地域と協働した新規就農者の確保・育成」として活動を進めていく。
【吉野委員】 どの報告も重点プロジェクトを意識した報告になっている点は評価できる。	【吉野委員】 初年度なので数値目標のクリアも大切だが、今後の見通しについても、よりつつこんだ分析があれば良かった。 (この他の指摘は県重点プロジェクト関連で回答する)	・指摘を踏まえて進めていく。
【児玉委員】 普及員と農家が信頼関係を構築していることが伺えた。女性就農者が激減している点など岩手県の農業の現状が少し分かった。	【児玉委員】 成果が数字で示されないものがあり、評価の判断が難しかった。 (この他の指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	・数値で示すことができない地域や対象の変化に加え、可能な限り効果を数値で示せるよう取り組んでいく。
【菊池委員】 普及センター皆様の地域を良くしていこうという思い、地域の皆様との取り組み、努力を感じた。	【菊池委員】 課題にもう少し踏み込んだ具体策が必要。	・個々の課題に関する具体策については、提言を踏まえて十分に検討していく。

令和元年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

二戸農業改良普及センター

1 外部評価の実施状況

(1) 第1分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	革新技術・GAPの普及による野菜産地力の向上 《内部評価A》	清水一孝	(株)西部開発農産 生産部部长	先進的農業者 【土地利用】
		千葉 丈	全農岩手県本部営農技術課 総合アドバイザー	農業関係団体者 【耕種部門】
実施場所		吉田勝栄	一般社団法人岩手県畜産協会 経営支援部部长	農業関係団体者 【畜産部門】
岩手県農業研究センター 大会議室		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター生産基盤研究領域 技術評価グループ長	学識経験者
		上田賢悦	公立大学法人秋田県立大学 生物資源科学部 准教授	他県比較・ 普及職員育成関係者

(2) 第2分科会

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和2年2月27日 10:30～16:30	ブランド果物産地の強化と果樹複合経営モデルの構築 《内部評価A》	五日市亮一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者 【組織経営】
		藤澤理平	(有)サン農園 代表取締役	先進的農業者 【園芸流通】
実施場所		吉野英岐	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 学部長・教授	学識経験者
岩手県農業研究センター 2階中会議室		児玉洋子	(株)日本農業新聞社 論説委員	マスコミ・ 流通消費関係者
		菊池奈津美	岩手県産株式会社 らら・いわて盛岡店 店長	マーケティング業界 関係者

2 課題別評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
革新技术・GAPの普及による野菜産地力の向上 《内部評価A》	【清水委員】《評価B》 —	【清水委員】 GAP認証は、個別認証であれ、団体認証であれ、地域で取りまとめ、3～4農場で協同で取得していくという方法が認証農場を増やす1つのコツではないか。認証取得まで農業者同士で進捗管理をしていくことは成功のための重要な要素と言える。	・「GAP認証取得希望者に対する支援体制の検討」及び「認証取得に向けた指導」の中で、取組方法の一つとして捉えている。
	【千葉委員】《評価A》 大変お世話になった。脱落の可能性もあったが、指導の賜物である。	【千葉委員】 —	
	【吉田委員】《評価A》 一定の品質となるマニュアル作成。全員の意欲向上につながったこと。	【吉田委員】 GAPと経営改善のつながり、収益確保のつながり。	・革新支援担当と連携して、GAP認証取得と経営改善を一体的に取り組む法人を支援することとしている。
	【宮路委員】《評価A》 GAPの団体認証取得を活動目標として掲げ、対象グループへの積極的な現地指導の実施やマニュアルの整備、検討会を開催し、脱落者が出ることなく団体認証取得を達成するなど、きめ細かな対応をしている点は評価できる。	【宮路委員】 今後、認証取得を目指す法人も存在することから、当該グループの認証取得で培ったノウハウを生かして活動に取り組まれることを期待したい。	・認証取得者と協働して、第三者認証GAPの取得を目指す農場の支援をすることとしている。
	【上田委員】《評価A》 GAPグループ活動支援からSNSやGISの活用など、非常に興味深い普及活動を実践しており、もっと時間をかけて報告を聞いてみたいと感じた。特に、「グループ活動の中で参加者(農業者)が相互啓発を図る」ことへの支援は、「考える農家をつくる」普及活動の王道であると評価できる。	【上田委員】 —	

(2) 第2分科会

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
ブランド果物産地の強化と果樹複合経営モデルの構築《内部評価A》	【五日市委員】《評価B》 —	【五日市委員】 目標設定の内容は良い。この目標達成により、地域への波及効果を期待する。4戸農家のデータに基づく考察では、対象が少ない。地域への波及も表現してもらいたい。	・地域を代表する4類型の成立条件について、関係者で構成する「果樹担当者会議」で取組情報を共有しながら、地域での定着に向けて取り組んでいくこととしている。
	【藤澤委員】《評価B》 農業者と共にある取組が見られた。	【藤澤委員】 この取組が地域に広がることを期待。	・協働機関と連携しながら、改植計画の実践について、地域への波及を図っていくこととしている。
	【吉野委員】《評価B》 —	【吉野委員】 重点支援農家4戸について、5項目で評価し、合計20項目で、目標は60%だったので、12項目クリアできればいい計算であった。実績は72.2%ということなのだが、この%が出てくる計算が良く分からなかった。A園は達成率が80%ということは分かったが、他の3つの園の状況も開示すべきではないか。対象の変化で「データ収集の重要性を認識」、「経営発展に向けて意欲の向上」が挙げられているが、そのエビデンスは何なのかははっきりしなかった。	【達成率の計算方法について】 ・支援農家4戸の目標が全部で18、達成した取組数が全部で13なので、達成率は72.2%(13/18)。 【エビデンスについて】 ・改植のシミュレーションでは、正確なデータが多いほど、緻密な計画を立てられ、経営改善にも役立つことが理解されたもの。今後、成果の取りまとめでは、普及対象の農家にも分かりやすく記述する。
	【児玉委員】《評価A》 —	【児玉委員】 発表内容から現場が見えにくいと感じた。モデルの構築は令和4年とだいぶ先である。生産者に示すためにももっと早くならないものか(果樹という生育に時間がかかる制約はあるが)。	・毎年度、農業革新支援担当と地域に普及できる成果がないか検討し、迅速に示していきたいと考えている。
	【菊池委員】《評価A》 ブランド果樹がしっかり確立されている。経営モデルの構築、育成に向けた取組。	【菊池委員】 —	

3 総括的評価の結果と改善方策

(1) 第1分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【清水委員】 やる気あふれる若手農家に特に注目して、そこから輪を拡げ、実証普及を行っている。	【清水委員】 －	
【千葉委員】 少ない人数で成果をあげて生産向上に努めている。	【千葉委員】 (1)経営関係の中課題の発表で県重点プロジェクトの関連が薄いものが見られた。個々の活動は成果をあげている。	(対象外)
【吉田委員】 計画を立て、農業普及員の方が先頭になり自ら取組んでいる。ぜひ、地域の農家に定着されることを期待。	【吉田委員】 －	
【宮路委員】 経営改善支援など、全体的に生産者、現場に寄り添った活動内容となっている点は評価できる。	【宮路委員】 経営改善目標等の設定に際しては、生産者と十分なコミュニケーションをとり、必要な改善点等をうまく導き出せるよう意識して活動に取り組まれることを期待したい。	・二戸では、独自に「5か年経営計画書」の様式を作成し、毎年度、支援対象と主担当、作目担当の3者が話し合いながら、改善に向けた行動計画を取りまとめており、この取組を継続することとしている。
【上田委員】 担い手や地域に密着し、潜在的な支援ニーズを把握し、支援対象経営体との信頼関係を構築しながら普及活動を実践していることが、各事例から理解できた。	【上田委員】 (指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	

(2) 第2分科会

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
【五日市委員】 モデル経営体への支援。	【五日市委員】 モデル経営体の実証情報を発表し、共有する機会を作ってもらいたい。	・二戸では、独自に開催している「普及活動発表会」を利用するなど、取組内容と成果の共有を図っており、今後もあらゆる機会を利用して、共有することとしている。
【藤澤委員】 各地域の特色に基づき、課題を考え、取組んでいた。	【藤澤委員】 ほとんどの課題が高齢化と若手不足のようであった。これを解決すればいいのではないか。	
【吉野委員】 どの報告も重点プロジェクトを意識した報告になっている点は評価できる。	【吉野委員】 初年度なので数値目標のクリアも大切だが、今後の見通しについても、よりつっこんだ分析があれば良かった。 (この他の指摘は県重点プロジェクト関連で回答する)	
【児玉委員】 普及員と農家が信頼関係を構築していることが伺えた。女性就農者が激減している点など岩手県の農業の現状が少し分かった。	【児玉委員】 成果が数字で示されないものがあり、評価の判断が難しかった。 (この他の指摘は県重点プロジェクトに記載し、回答する)	・二戸での次年度の取組では、「改植計画の実践と内容の検証」を到達目標としており、成果を分かりやすく数字を使って示すこととしている。
【菊池委員】 普及センター皆様の地域を良くしていこうという思い、地域の皆様との取り組み、努力を感じた。	【菊池委員】 課題にもう少し踏み込んだ具体策が必要。	・二戸では、営農類型ごとに改植計画を策定・実践することにより、地域を代表する果樹複合経営の育成を目指しており、革新支援担当から助言を受けながら、支援活動を展開していくこととしている。

「普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領」

第1 趣 旨

県では、協同農業普及事業の実施に関する方針（以下「実施方針」という。）を定め、農業者が将来展望をもって農業経営に取り組むことができるよう、地域課題等の迅速な解決を目指し、効果的な普及指導活動を展開することとしている。

この要領は、普及指導活動を効果的かつ効率的に実施するため、普及指導計画等の策定、これに基づいたスペシャリスト機能・コーディネート機能・総合的な企画運営能力を発揮した普及指導活動の実施と記録、幅広い視点からの客観的な評価の実施及び評価に基づく活動の見直しを一連のサイクルとして行うことについて、必要な事項を定めるものである。

第2 普及指導計画等の策定

- 1 農業普及技術課農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、「いわて県民計画」の目標実現に向け、計画的かつ継続的な普及指導活動を行うため、実施方針に則し、地域農業・農村の現状及び農政推進上の課題、目指す方向や目標を明らかにして4カ年を計画期間とする普及指導計画等を策定する。

なお、普及指導計画等の内容や課題の計画期間は、課題解決の進捗状況等、必要に応じて見直すものとする。

- 2 普及指導計画等は、県重点プロジェクトと地域課題普及指導計画に分類し、基本方針及び課題別計画の構成とする。
 - (1) 様式第1号の県重点プロジェクトは農業普及技術課農業革新支援担当、様式第2号の地域課題普及指導計画は農業改良普及センターが作成する。
 - (2) 基本方針は、様式第1-1号、様式第2-1号により作成し、様式に掲げる事項を定める。
 - (3) 課題別計画は、様式第1-2号、様式第2-2号により作成し、様式に掲げる事項を定める。
- 3 農業普及技術課農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、高度化かつ多様化する農業者等のニーズに対応し、より一層効果的かつ効率的な普及指導活動の展開を図るため、普及指導計画等の策定にあたって、次の内容に留意する。

- (1) 消費者や農業者のニーズの視点をもって活動するため、普及指導員が巡回指導や各種の調査等を通じて収集整理した情報をもとに管内の農業及び農村の現状を踏まえ、重点的に取り組むべき課題と支援対象者を絞り込む。
 - (2) 課題解決に向けて取り組む項目や到達目標、及び支援対象者への具体的な支援内容や目標等について、あらかじめ支援対象者と十分に協議するとともに、対象者と共有するものとする。
 - (3) 農業農村指導士、普及事業パートナー、市町村や農協等関係機関・団体や県出先機関と十分な協議・検討を行って課題と目標を共有し、それぞれの役割分担と連携の進め方（地域協働の姿）を明確にする。
 - (4) 全県的な重要課題の解決や、地域農業の生産面・流通面等の革新を図る活動については、農業普及技術課農業革新支援担当が主体となり、農業改良普及センター間や普及組織外の関係機関、民間等と特に幅広く協働する県重点プロジェクトに位置づけて取り組むものとする。
 - (5) 地域に強いニーズがあり、地域全体の状況改善に特に大きな効果が期待できる課題の解決については、農業改良普及センターが主体となり、県重点プロジェクトと同様に関係機関等と幅広く協働し、地域課題普及指導計画に位置づけて取り組むものとする。
 - (6) このほか必要な活動については、一般課題に位置づけて取り組むことができるものとする。
- 4 農業改良普及センターは、地域課題普及指導計画を策定及び変更した場合には、当該年度4月末までに農業普及技術課総括課長へ報告する。なお、地域課題普及指導計画を策定及び変更しようとする場合には、農業普及技術課農業革新支援担当の助言及び指示を受けるものとする。

第3 普及指導活動の実施等

- 1 農業普及技術課農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、普及指導計画等に基づき、効果的かつ効率的な普及指導活動を実施する。
- 2 農業普及技術課農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、様式第1-3号、様式第2-3号により普及指導計画等の進捗状況を把握しながら、当該年度の普及指導活動を計画的かつ効果的に実施するよう努める。
- 3 農業普及技術課農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、支援対象者等に対する普及

指導活動の内容を記録・蓄積することにより活動経過を共有し、継続的な普及指導活動を実施する。

- 4 農業普及技術課農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、普及指導活動の実施状況や成果について、毎年度、活動実績書等に取りまとめ、県のホームページ等を通じて積極的に外部に公表するとともに、地域の農業者等に対して広く周知する。

第4 普及指導活動の評価

- 1 農業普及技術課農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、普及指導活動の結果を的確に把握して、その後の効果的な活動に反映させるため、毎年度、普及指導活動の内部評価を実施する。

- (1) 農業普及技術課農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、普及指導計画等に定めた課題の進捗状況及び活動記録を通じて明らかになった対象の変化等を整理・分析し、課題別に内部評価を実施する。

- (2) 課題別評価は、様式第1-3号、様式第2-3号により、計画策定過程、活動実施過程、活動の結果の視点をもって、総合的に評価する。

加えて、4カ年の計画期間の最終年には、課題別実績の様式第1-4号、様式第2-4号により、4年間の実績を総括して評価する。

- (3) 農業普及技術課農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、内部評価結果を様式第1-3号、様式第2-3号に取りまとめて、当該年度末までに農業普及技術課総括課長に報告する。なお、4カ年の計画期間の最終年には、様式第1-4号、様式第2-4号についても同様とする。

- 2 農業普及技術課農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、幅広い視点から客観的な評価を得、一層効果的かつ効率的な普及指導活動を展開するため、毎年度、第三者による外部評価を受けるものとする。

- (1) 農業普及技術課総括課長は、外部評価を統轄し、外部評価委員会（以下「委員会」という。）の設置と、必要な予算措置を講ずる。

- (2) 外部評価委員は、地域の先進的な農業者（農業農村指導士等）や外部有識者（農業関係団

体、消費者、学識経験者、マスコミ、民間企業等) から毎年度、一部に偏りが出ないように 5 名以内を選任する。ただし、再任を妨げない。

(3) 内部評価終了後、概ね 2 月中下旬に委員会を開催する。

(4) 委員会では、毎年度数課題を選定し、指導計画、活動方法及び成果、活動体制を評価する。

(5) 農業普及技術課総括課長は、委員会からの意見・提言等を当該年度末までに外部評価結果報告書の様式第 1-5 号、様式第 2-5 号に取りまとめる。

3 農業普及技術課農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、内部評価及び外部評価の過程を経て取りまとめた活動の成果と課題及び委員会の意見等を踏まえて、課題解決の方策等について十分に検討を行い、次年度以降の普及指導計画等に可能な限り反映させ、もって普及指導活動及びその体制の改善を行う。

4 農業普及技術課総括課長は、外部評価結果や成果等について取りまとめ、県のホームページ等を通じて積極的に外部へ公表する。

第 5 その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附則

この要領は、平成18年10月6日から施行する。

附則

この要領は、平成20年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成23年5月2日から施行する。

附則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成27年12月3日から施行する。

附則

この要領は、平成28年10月31日から施行する。

附則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。